

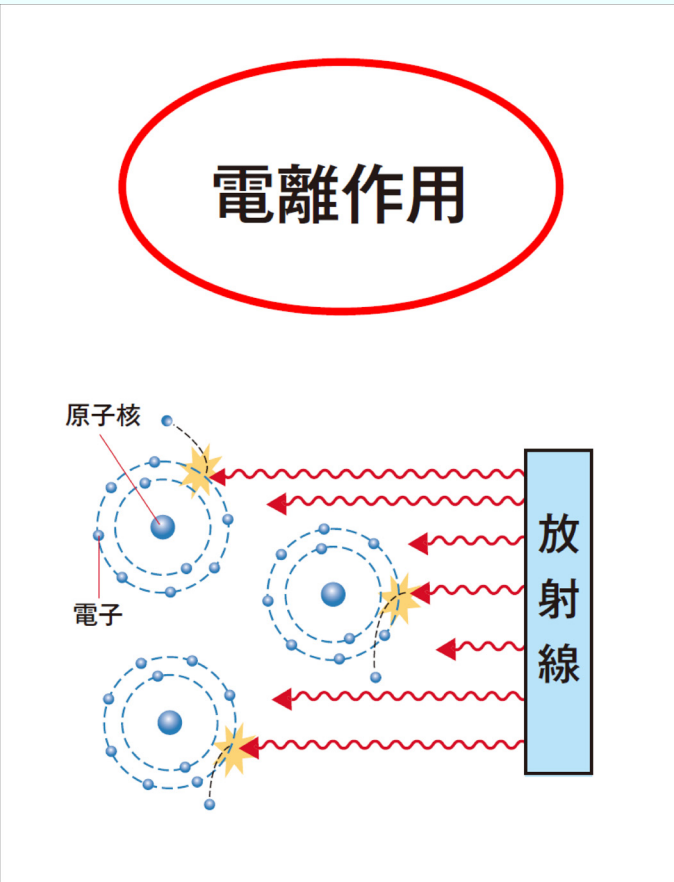
**2018/08/04 (土) 05 (日) みんなの暮らしと放射線展  
放射線ファミリー教室 保護者対象ミニツアー  
於 大阪科学技術センター**

**結局どれぐらい放射線は  
身体に影響があるの？**

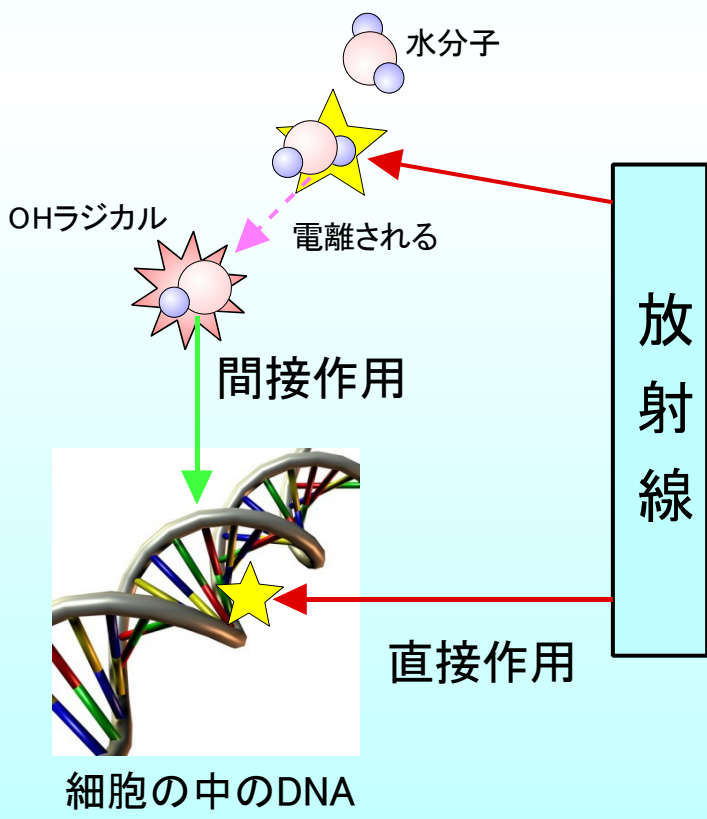
**大阪府立大学 放射線研究センター  
准教授 秋吉 優史**

# 放射線を身体に受けると何が起こるの

放射線は原子の周りの電子を弾き飛ばしてしまい、結合している手を切ってしまう「電離作用」を示します。



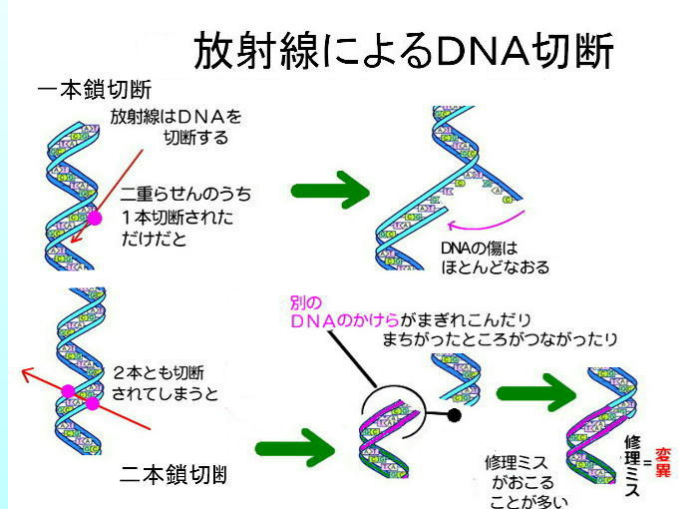
直接DNAを構成する原子を電離して切断するほかに、水を電離して、活性酸素のような化学的に活性なラジカルを作り出します。このラジカルが、間接的にDNAを切断します。



細胞のDNAは放射線以外にも呼吸により発生する活性酸素などで常に攻撃されています。

このため、細胞は切断されたDNAを元通りに修復しています。修復できないほどDNA切断が多い場合には、アポトーシス(自分のDNAを細かく切り刻む現象)によって細胞は自ら死んでしまい影響を後に残しません。

余りにもたくさんの攻撃を受けると、ごくまれに起こるDNA修復誤りによって遺伝子突然変異が起こり、発がんの原因になると考えられています。



放射線の被ばく

酸素呼吸によるエネルギー生成、紫外線や様々な化学物質

がんを防ぐ体のはたらき

放射線が直接DNA鎖を切ってしまう直接作用もありますが、6-7割程度が活性酸素による間接作用です。



偏った食事や過労などのストレスにより、体の防御機能が上手く働かなくなってしまいます。

活性酸素などの発生

放射線や紫外線、生きていく上で絶対に必要な酸素呼吸によるエネルギー生産の過程で、化学的な活性の高い、活性酸素などのラジカルが発生します

活性酸素などがDNAと反応すると、二重らせんの鎖を切断してしまいます。

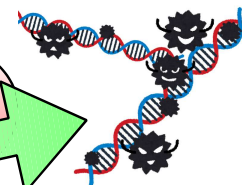
ビタミン、ポリフェノールや酵素などによる還元

DNA損傷の生成



バックアップデータからの修復

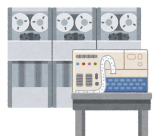
DNA損傷の修復誤り



あまりにもダメージが大きいと、完全に修復しきれなくなり、修復の際にミスが起こることがあります。

修復ミスが残ると、一部の細胞はがん化してしまいます。毎日数千個のがん細胞が発生しており、長い時間をかけて増殖しがんになり成長します。刺激物などによる炎症はがん化を促進します。

野菜や果物に含まれるビタミンやポリフェノールや体内で作られる酵素には、活性酸素を還元し無害にする働きがあります。



修復を断念して死を選ぶ

がん細胞の発生

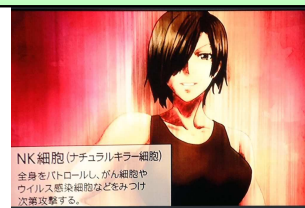


DNAはお互いペアとなる分子が1組となり2重のらせん構造を持っているため、片方の鎖が切れてももう片方のデータをコピーすることで修復することができます。また、2本とも切れてしまった場合でもほとんどの場合で修復できる働きがあります。



免疫細胞による攻撃

あまりにもダメージが大きいと、完全に修復しきれなくなり、修復が無理だと判断した細胞は自ら死を選ぶことで、間違った遺伝情報が残らないようにします(アポトーシス)。人の体は37兆個といわれる沢山の細胞で出来ていて、毎日沢山の細胞が死んで、また新しく生まれて機能を維持しています。



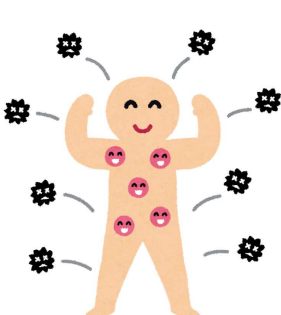
がん細胞

放射線治療



逆に、大量の放射線のがんに集中的に照射することで、がん細胞を殺してしまう治療法があります。

バランスの取れた楽しい食事  
健康な体を保ちましょう!



体の中には病原菌やウイルス、がんを攻撃する様々な免疫細胞がはたらいています。その中の一つナチュラルキラー細胞(NK細胞)はがん細胞を狙い撃ちすることが出来る細胞です。笑うことによって活性化する一方、ストレスに弱いことが知られています。免疫細胞の働きで、体内で発生した変異細胞のほとんどが摘み取られています。

→ 医療のコーナーをチェック!

それぞれの役割を持つ免疫細胞達は、体の中に入ってくるさまざまな細菌やウイルス、そしてがん細胞と、毎日戦い続けて、健康な体を守っています。

## 免疫細胞たちの活躍



学校の授業、身体の中のことを教える機会、医療施設での各種説明、及びそれらに類似する場などで、「はたらく細胞」で擬人化された細胞たちや細菌等の画像の一部を無償で利用することができます。

### 白血球 (好中球)



外部から体内に侵入した細菌やウイルスなどの異物を食べて排除する(食食)。好中球は血液中の白血球の半数以上を占めており、最前線で真っ先に侵入者と戦う自然免疫の細胞。多種類の異物、病原体の分子に反応することができるが、特定の病原体に繰り返し感染しても、自然免疫能が増強することはない。

### ナチュラルキラー NK細胞



全身をパトロールし、がん細胞やウイルス感染細胞などを見つけ次第攻撃する自然免疫細胞。自分でがん細胞を判別することができるためがん細胞への攻撃力が特に強い。笑うことによって生じる神経ペプチドによって活性化する一方で、ストレスによるホルモンで活性が低下する。

### マクロファージ



細菌などの異物を捕らえて殺し、抗原や免疫情報を見つけ出す。がん細胞を発見すると、それを食べて確認して、ヘルパーT細胞に伝える。殺傷能力が高く、死んだ細胞や細菌を片付ける役割も有している。

### 樹状細胞



体内に侵入してきた細菌や、ウイルス感染細胞などの断片を抗原として提示し、他の免疫系の細胞に伝える役割を持つ。その名の通り周囲に突起を伸ばしている。

抗原情報の提示

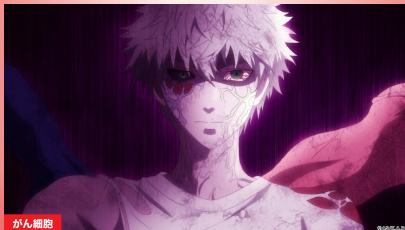
### ヘルパーT細胞



外敵侵入の知らせを受け、敵の情報をもとに、的確に攻撃できるように戦略を決める司令官。マクロファージや樹状細胞からもらった抗原情報を基に、キラーT細胞やB細胞をその抗原に合わせて活性化する。

初めて対応する抗原に対しては、抗原情報の獲得、分析、活性化、抗体の生産までに、2~3日かかってしまいます。一度対応した抗原は記憶されており、次回から素早く反応します。

毎日これらの敵と戦っています!



### キラーT細胞



ウイルス感染細胞、がん細胞などの異物を認識・破壊する殺し屋。抗原情報を受け取ったヘルパーT細胞の命令(サイトカインの分泌)によって活性化して出動する。一度出動したあとは、記憶T細胞が残り次回素早く反応する。

### B細胞



細菌やウイルスなどそれぞれ異なる抗原に対し、抗原特異的な抗体(免疫グロブリン)というオーダーメイドの武器を作って戦うリンパ球の一種。一度抗体を作ると記憶B細胞が残り次回の侵入時に素早く抗体を作ることができる(いわゆる免疫の獲得)。

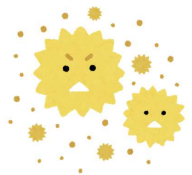
活性化



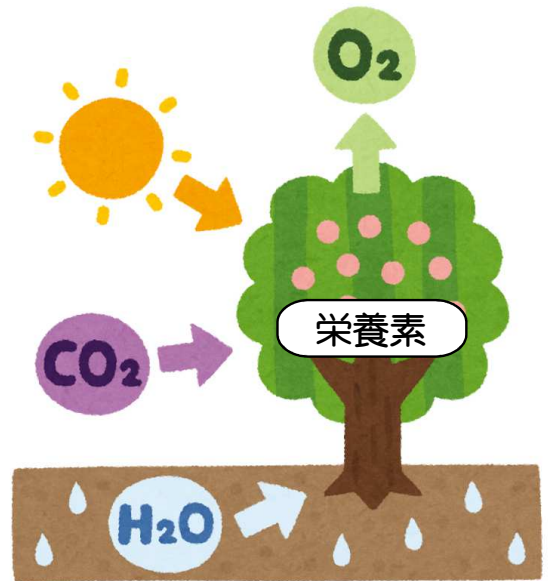
どうして野菜を食べなくちゃいけないの？

光合成の際の化学反応や紫外線の影響

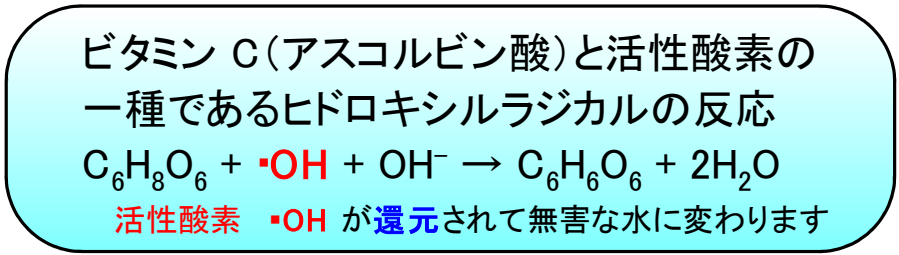
活性酸素などの発生



植物は光合成により水と二酸化炭素と光のエネルギーからデンプンなどの栄養と酸素を作り出しています。この時の化学反応で、非常に活性の高い活性酸素が沢山作り出されてしまい、そのままでは植物は自分の光合成反応のために死んでしまいます。



植物による光合成



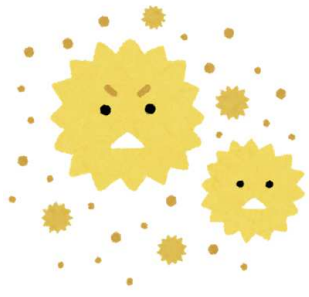
そこで、植物はビタミン類やポリフェノールなど様々な抗酸化物質を自分で作り出すことで、活性酸素を還元して無害にし、自分の体を守っています。また一部の色素は紫外線を吸収して活性酸素の生成を抑制します。

ビタミン類やポリフェノールを自分で作れない動物は、野菜や果物、肉食獣ならばそれを食べた他の動物を生で食べることで自分の体にビタミンなどを取込み、活性酸素から身を守っています。

植物が作ってくれたビタミンなどを、感謝して頂きましょう！



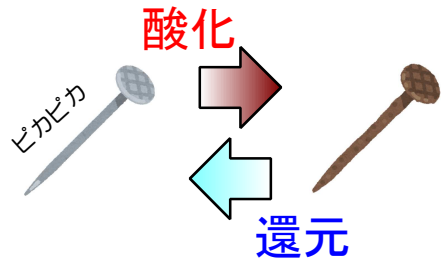
# 活性酸素ってなに？



動物は食べ物から取込んだ栄養分を酸素を使って体を動かすエネルギーにしています(呼吸)。植物は水と二酸化炭素と光のエネルギーからブドウ糖などの栄養分と酸素を作り出しています(光合成)。そのどちらの化学反応でも、様々な物質を酸化させてしまう「活性酸素」という物質が発生します。さらに、紫外線や放射線を浴びたり、タバコや排気ガス、重金属などの化学物質の摂取などにより、体内での活性酸素の発生が増加します。

スーパーオキシド、一重項酸素、ヒドロキシラジカルなど。

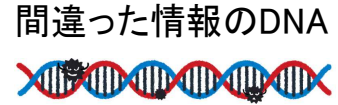
細胞の中にある器官、ミトコンドリアで酸素を使ってエネルギーを生産する際に、活性酸素が発生します。



必ずしも「酸化=悪」「還元=体に良い」と言うわけではありません。免疫細胞によっては活性酸素を使って細菌を撃退しています。しかし酸素を使ってくらしで居る私たちの体は少しずつ酸化されていくため、出来るだけ活性酸素を打ち消していく必要があります。全てのポリフェノールなどの働きが明らかになったわけではなく、その効果には疑問視されている物もありますし、過剰摂取すると体に良くないとされている物もありますので、安易にサプリなどに頼らず、バランスの取れた食事を心がけましょう。



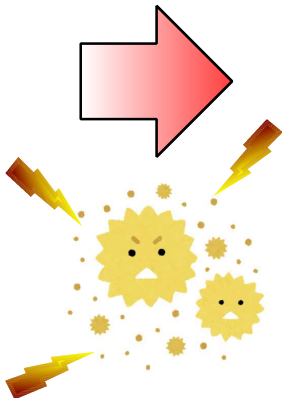
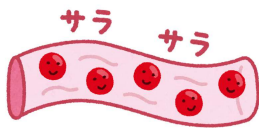
## 酸化



細胞壁の脂質



しなやかな血管



動脈硬化、血栓



## 病気



## 老化

### からだを守る抗酸化物質

Vitamin A



緑黄色野菜に多く含まれるβ-カロテンから生成され、皮膚や粘膜を正常に保ちます。

油と一緒に摂取すると吸収率がアップ↑

Vitamin E



植物性油脂やカボチャなどに多く含まれ、過酸化脂質の生成を抑えてくれます。

Vitamin C



非常に抗酸化力が強く、食品の酸化を防ぐために添加物としても入れられています。熱に弱く、また水に溶けやすく尿から排泄されてしまうため毎日摂取が必要です。

ポリフェノール



赤ワインやブルーベリーのアントシアニン、大豆のイソフラボン、緑茶のカテキン、ゴマのセサミンなど様々な物があり、抗酸化作用だけでなく視力回復、血圧低下、アレルギーの改善など様々な効果があるとされています。

抗酸化酵素

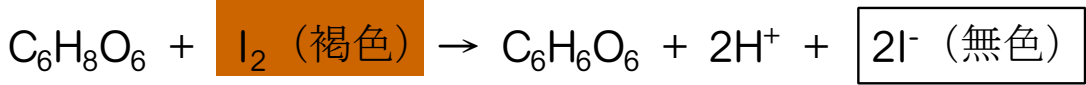
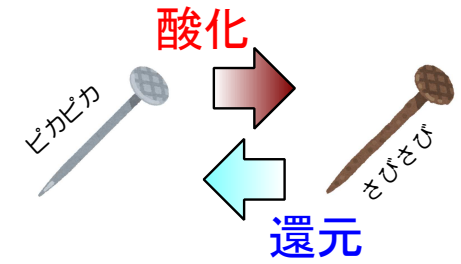


外から摂取するビタミンなどとは違い、体の中でタンパク質から作られる酵素にも過酸化水素を無毒化するなどの働きがあります。作るために亜鉛やマンガンなどのミネラルが必要です。

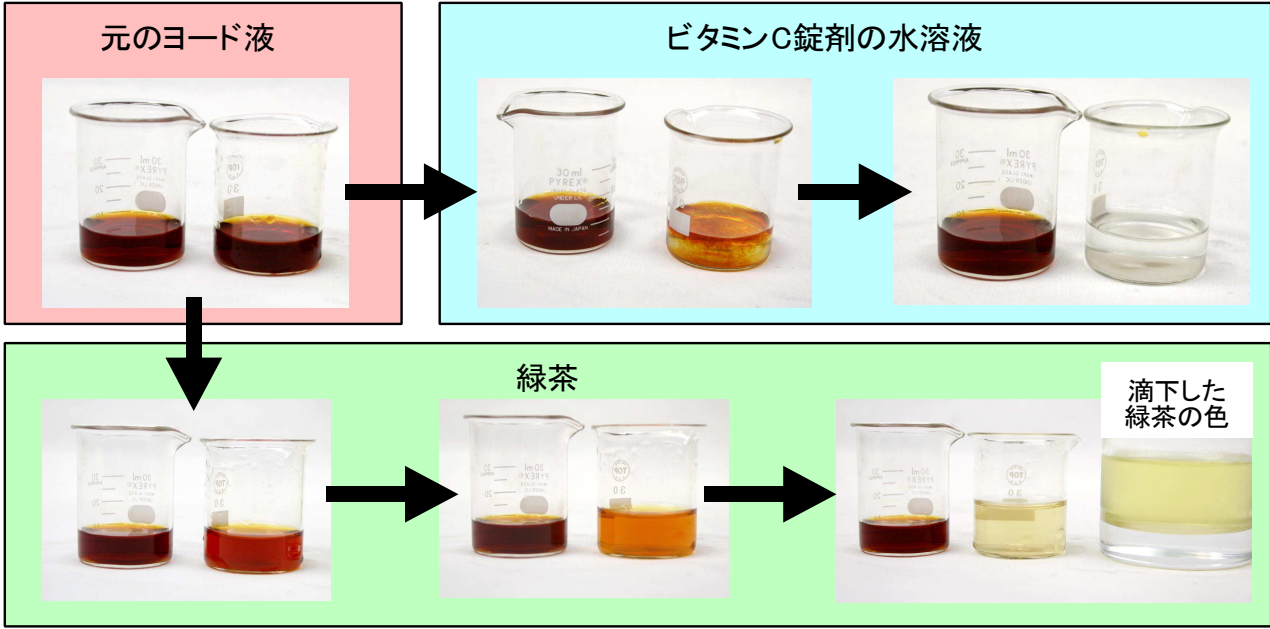
# ヨード液の色を変えてみよう!

うがい薬に使われるポピドンヨードは、ヨウ素の穏やかな酸化作用を利用した殺菌剤として知られています。

ここでは、褐色を示すヨウ素を**活性酸素の代わり**の「**酸化剤**」としてとらえ、ビタミンCなど抗酸化食品によって**還元**されると色が無くなっていく様子を観察します。これによって体内での活性酸素を還元するはたらきが理解できます。



ヨウ素はビタミンCによって**還元**されています。逆にビタミンCはヨウ素に**酸化**されてデヒドロアスコルビン酸になります。

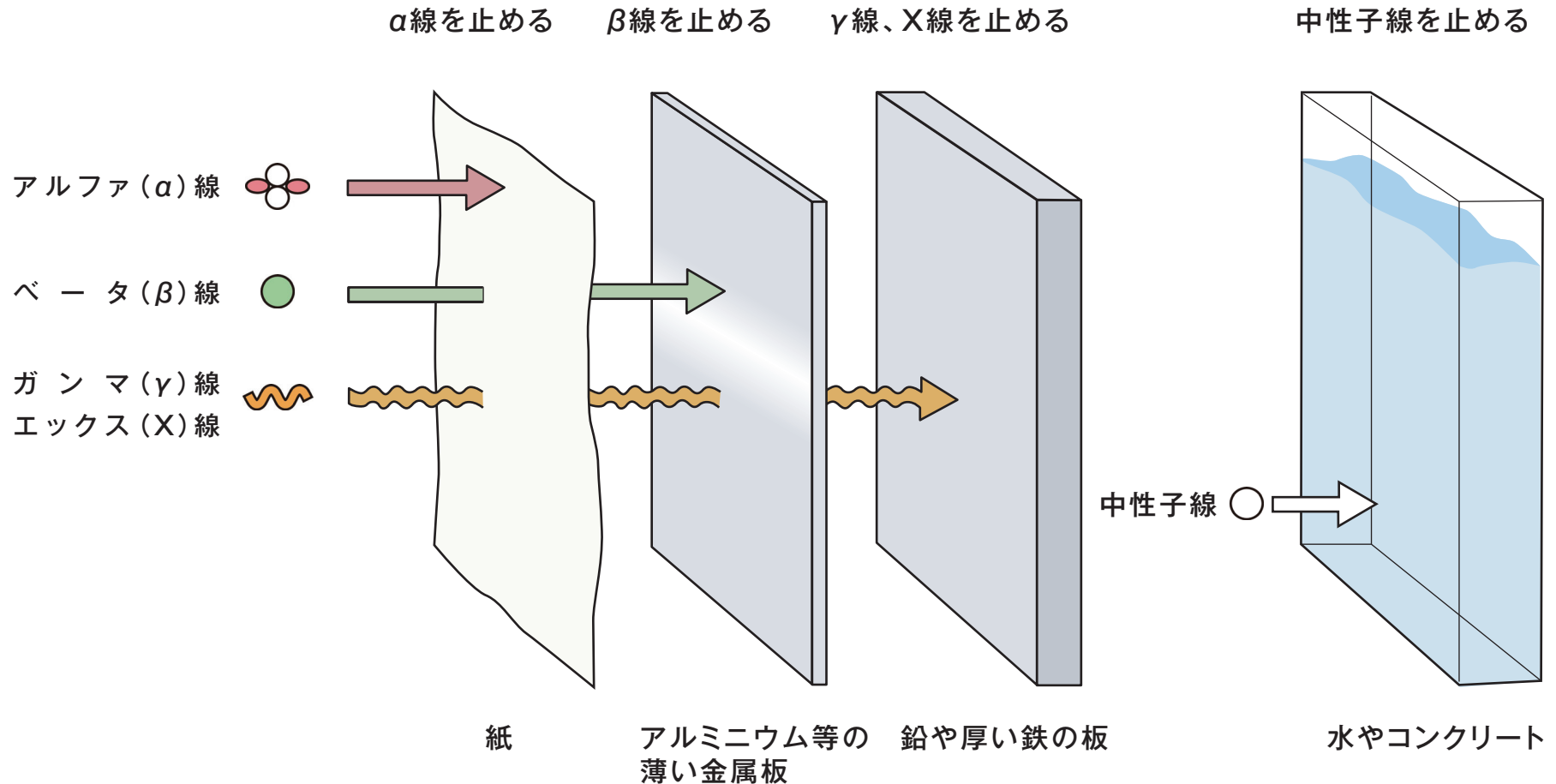


逆に、無色のヨウ素イオンに放射線をあてると、活性酸素の作用でヨウ素イオンが酸化されて、ヨウ素分子になり色が付きます。この色の濃さを測定することで、どの程度放射線が当たったのを知ることが出来ます。ただし、0.5~100Gy という非常に沢山の放射線を当てないと色を変えることは出来ません。

福井工大 砂川武義「PVA-KI系におけるゲルインジケータ」

# 放射線の種類と透過力

線は紙一枚で止まってしまいますが、逆に言うと紙一枚の厚さの範囲に持っているエネルギーを全部一気に放出してしまうため、体の中で線を出されるととても影響が大きくなります。



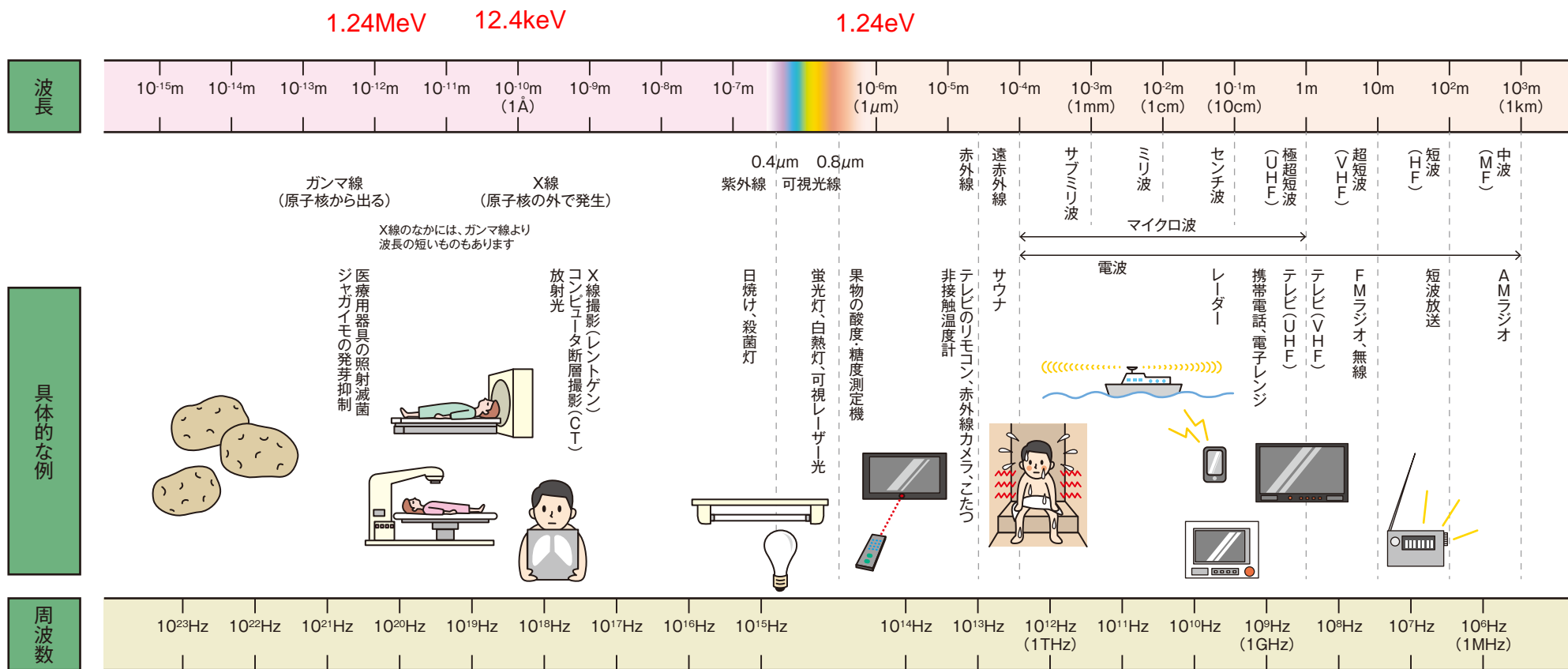
線は水の中(=体の中)を最大で2mm弱進むことが出来、細胞から見ると比較的広い範囲にエネルギーを落としていき、また体の外から来た場合はほとんど皮膚で止まります。

線は透過能力は高く、遠くから飛んできて体の中までやってきますが、逆に体内で放出されてもほとんど素通りしていきます。



# 電磁波の仲間

光子のエネルギー  $E \approx 1240 / \lambda$  [eV],  $\lambda$ : 波長[nm]



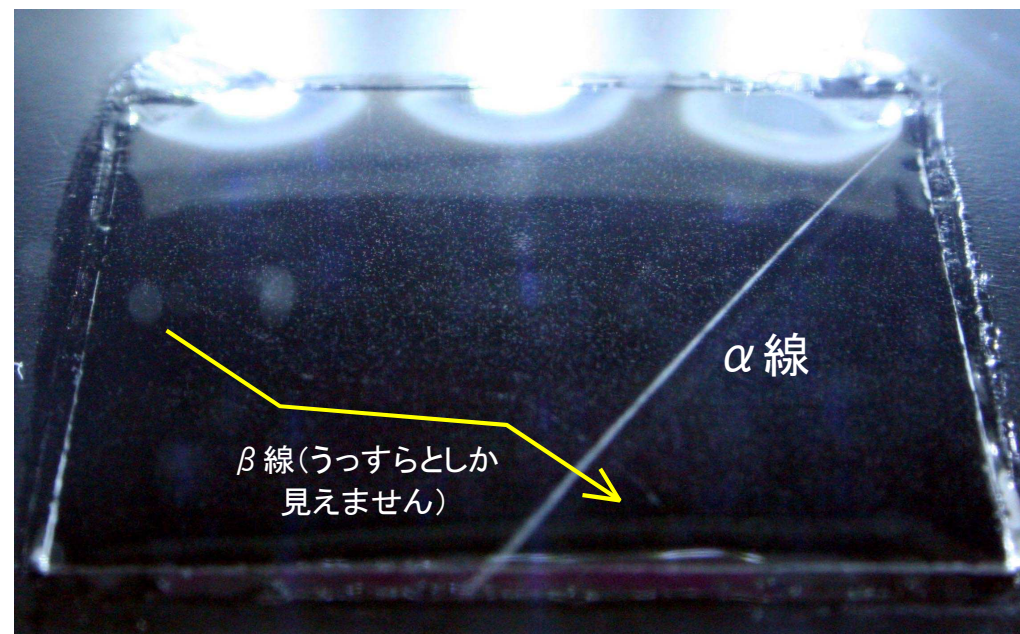
線、X線は光・電磁波の仲間ですが、とても波長が短く、エネルギーが高いため、物質を透過したり、原子の周りを回っている電子を弾き飛ばして様々な影響を与えます。

# 「霧箱」を使って放射線 を見てみよう!

放射線は普通目に見えませんが、音も聞こえず人間には感じ取ることが出来ないため、どんなものなのか良く分かりませんよね。

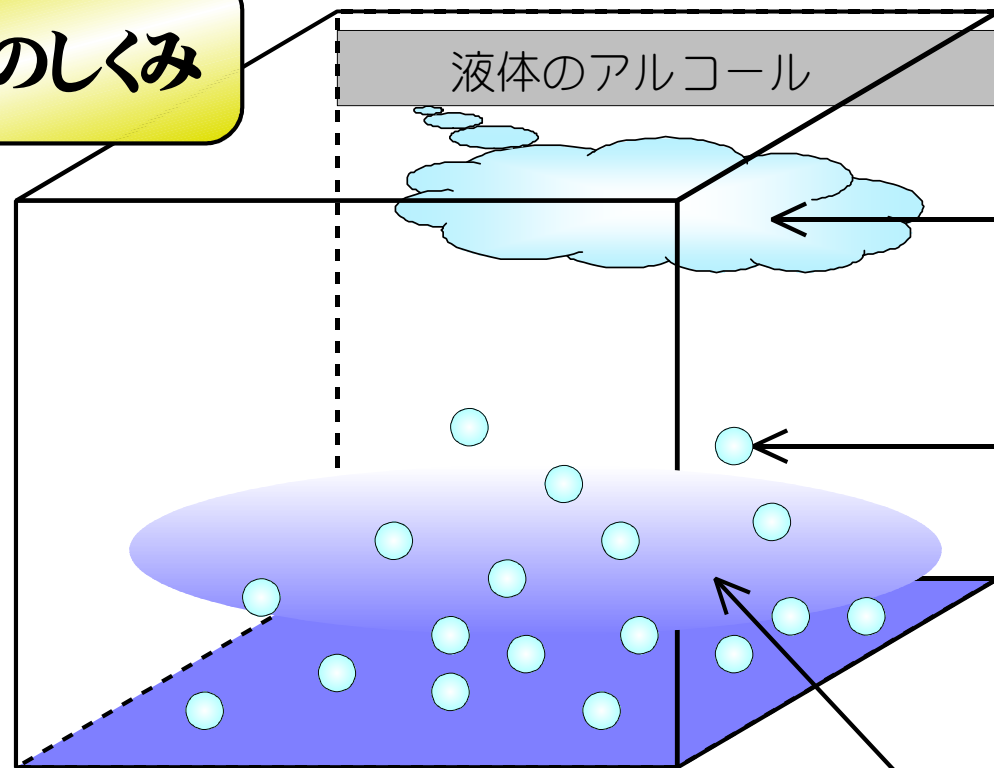
そこで、100年ほど前に発明された「霧箱」という装置を使って放射線が通った後を目で見えてみましょう!

普段、何もないと思っていた空気の中にも、放射線はたくさん飛び交っているんですよ。



放射線にも色々種類があって、その種類によって飛び方が違うんですよ。

## 霧箱のしくみ



温度が高いとたくさん蒸発します

アルコールの蒸気

液体のアルコールの  
小さな粒

温度が低いと蒸気では居られません

ドライアイスやペルチエ素子で  
とても冷たく冷やされています

過飽和の蒸気

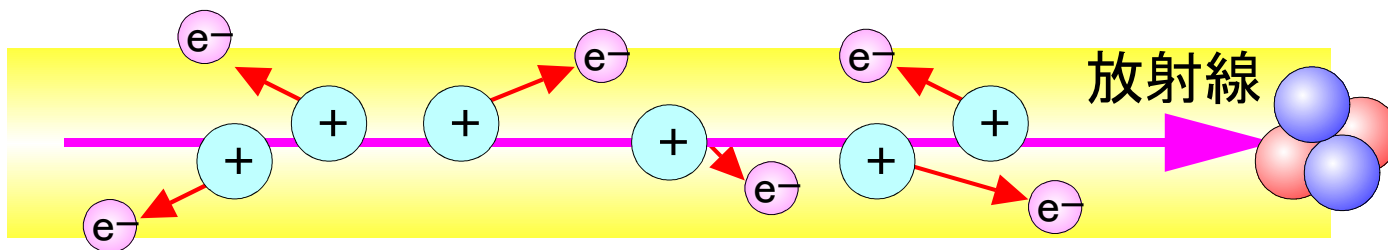
温度が低くなると、蒸発した気体のアルコールは液体に戻ろうとします。霧のように見える白い点々は液体のアルコールの小さな粒です。でも、温度が下がったのに液体の粒を作らずにためらっている蒸気も漂っています（過飽和状態と言います）。そこにちょっとした刺激を加えてやると、過飽和の蒸気は次々に液体の粒に変化していきます。

## どうして白い筋の様に見えるの？

放射線が空気中を走ると、たくさんの電子を弾き飛ばしてプラスとマイナスのイオンのペアを作ります。

このイオンが過飽和の蒸気の中に出来ると、そこを中心核にして小さな液体の粒になります。

この液体の粒が放射線が通った後にたくさん出来るので、白い筋の様に見えるのです。（放射線の飛跡と言います）

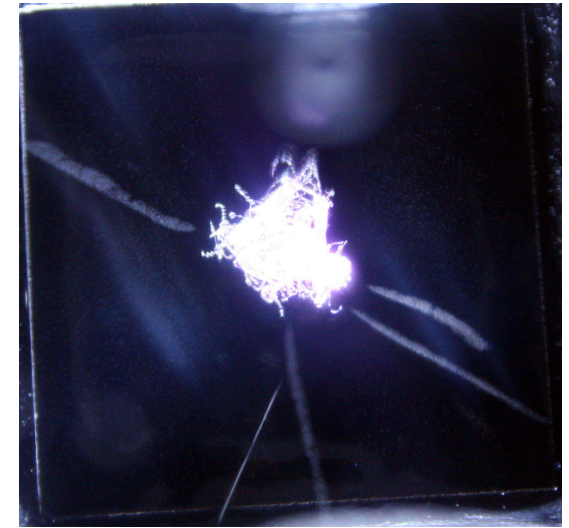


### 電離によるイオン対の生成

放射線として飛んで行っている原子核や電子は小さすぎてとても目では見られませんし、とても素早いので超スピードのカメラでも追いつきません。

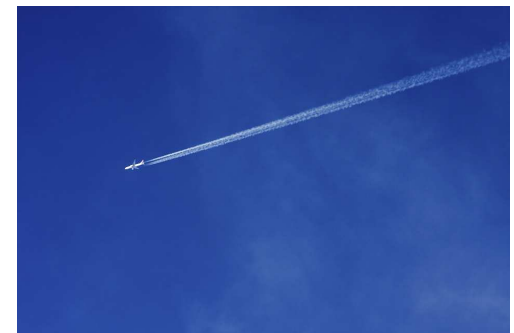
でも、飛んでいった跡が残って、目で見えるのです。

これは、空の上の飛行機雲と同じです。飛行機が飛んでいった後にもしばらく飛行機雲が残っているのを見ることができます。飛行機雲は、空の上の寒いところで過飽和になった水蒸気が、飛行機のエンジンから出てきた排気ガスなどが刺激になって小さな液体の水の粒、つまり雲になった物です。



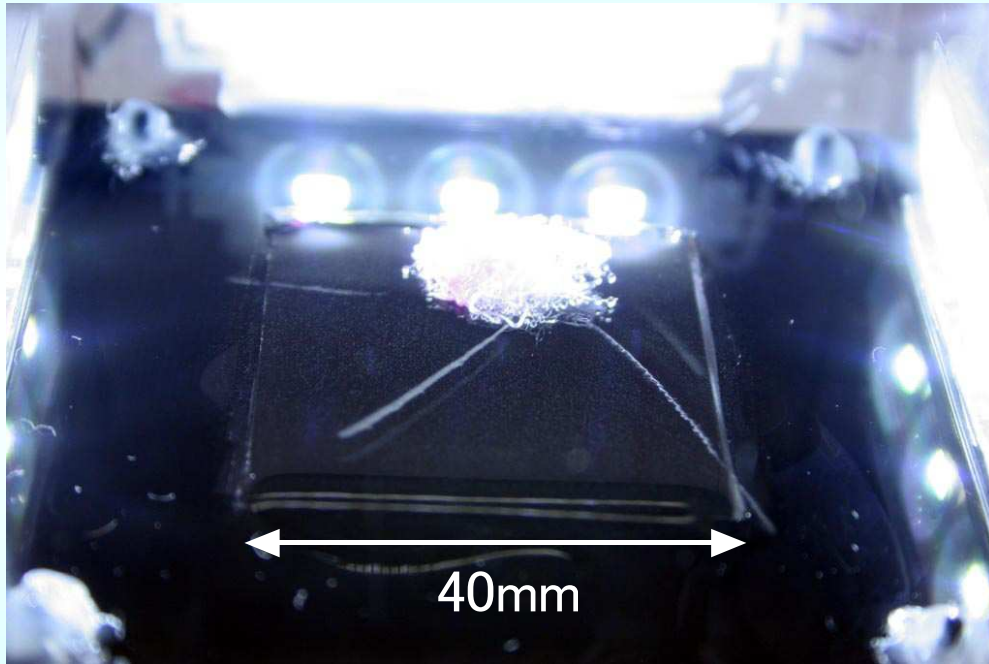
過飽和の蒸気は冷やされている容器の底に薄く広がっているだけなので、底に平行に走った放射線しか見ることができません。

また液体の粒はすぐ蒸発してしまって、数秒で見えなくなってしまう。



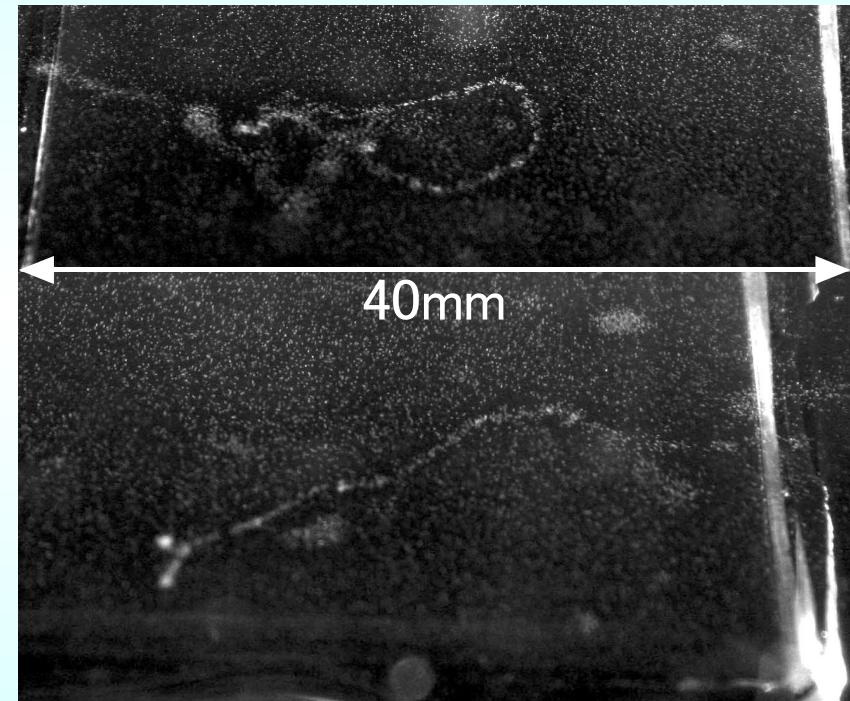
## 霧箱での飛跡の観察

### $\alpha$ 線の飛跡



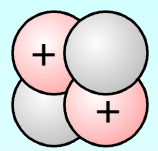
真っ直ぐで、はっきりとしています。  
空気中を数cm飛んだだけで  
止まってしまいます。

### $\beta$ 線の飛跡

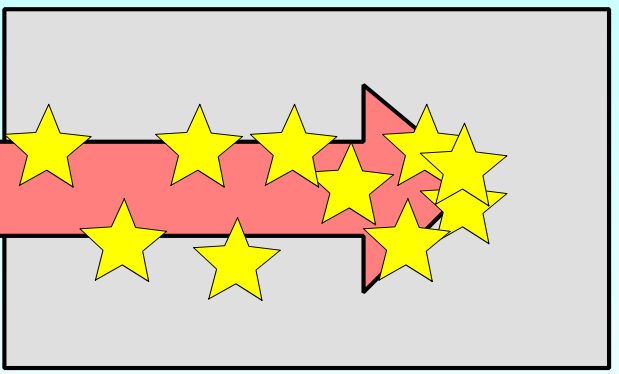


糸くずのよううっすらとした、  
曲がりくねった跡を残します。  
よく見ないと、見る事ができません。

アルファ  
**α線**



ヘリウムの  
原子核



狭い範囲に一気に  
エネルギーを放出します

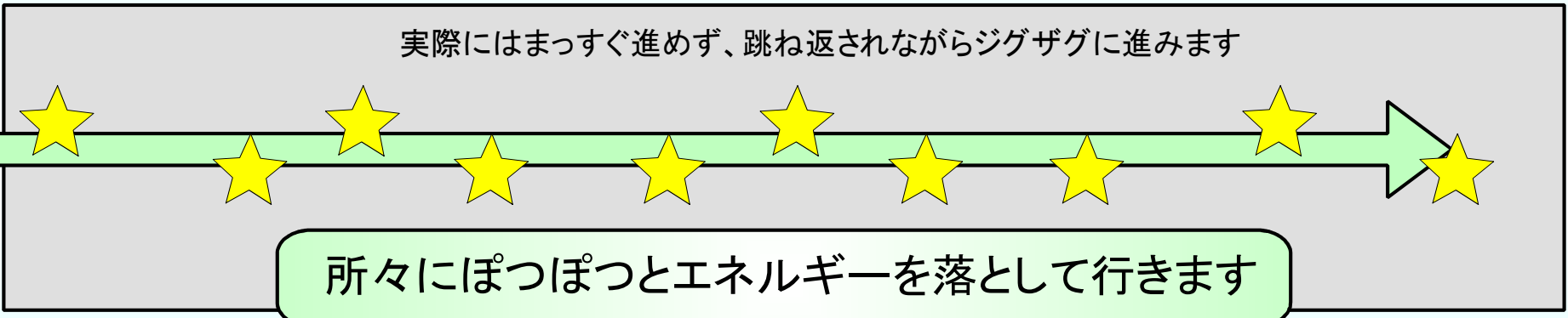
★  
放射線がエネルギーを  
物質に与えたところ  
(電離、励起など)

水の中では数十μm程度、空気の中でも数cmしか飛ばず、紙一枚で止まってしまいますが、その範囲に一気にエネルギーを放出します。

ベータ  
**β線**



電子  
ヘリウムの原子核の7000分の1の重さしか有りません



実際にはまっすぐ進めず、跳ね返されながらジグザグに進みます

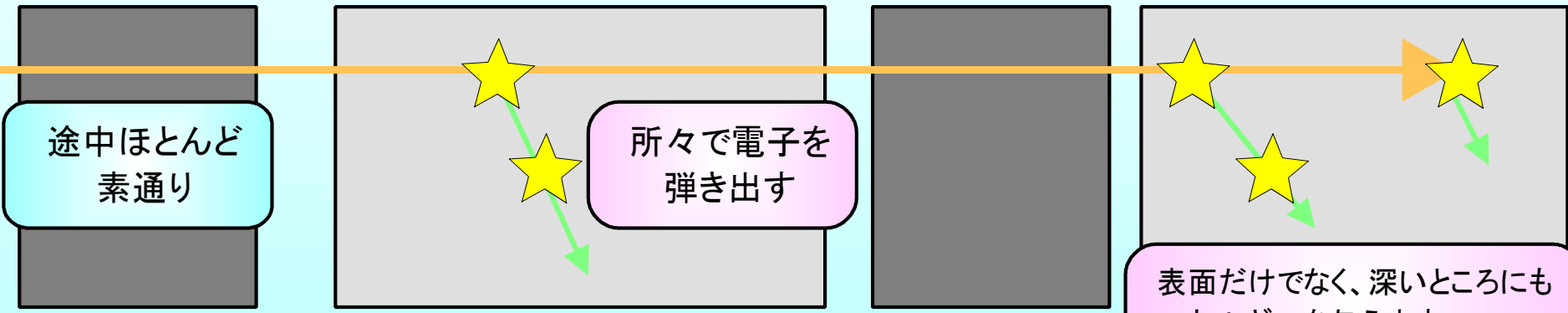
所々にぽつぽつとエネルギーを落として行きます

水の中でも1cm程度、空気の中では数m飛んでいき、少しずつしかエネルギーを落としません。

ガンマ  
**γ線**

波長の短い  
光の仲間

プラスやマイナスの電気を  
持っていないため、ほとんど  
素通りしていきます

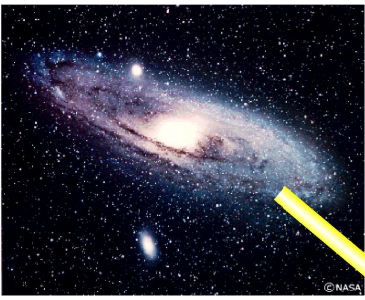


途中ほとんど  
素通り

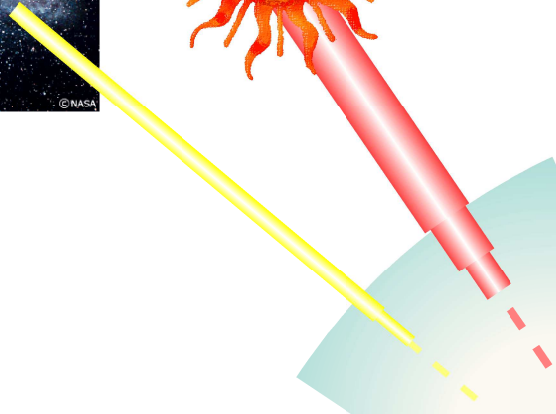
所々で電子を  
弾き出す

表面だけでなく、深いところにも  
エネルギーを与えます。

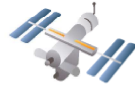
弾き出された電子は、β線と同じように振る舞います



# 宇宙からの放射線



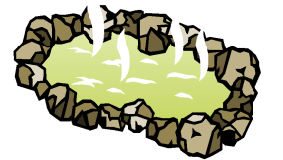
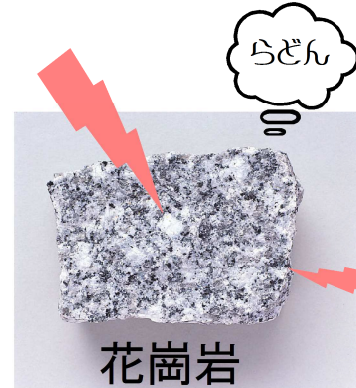
宇宙ステーション



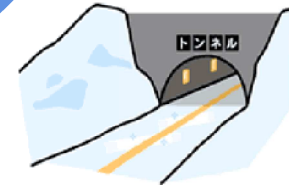
# 医療での放射線



# 食品からの放射線



ラジウム・ラドン温泉



# 大地からの放射線



ピサの斜塔

イタリア・ピサの大聖堂

# 宇宙からの放射線

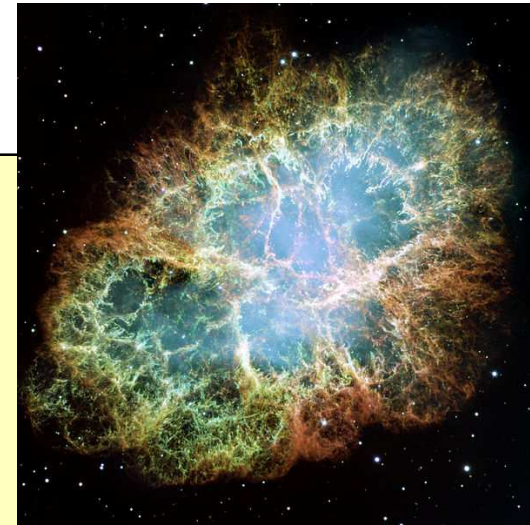
大気で地球上の生物は守られている



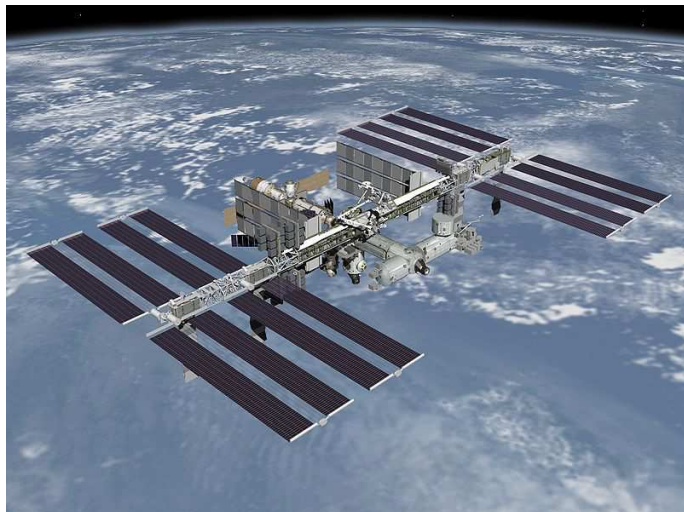
アラスカ、フェアバンクスで観察されたオーロラ

太陽から帯電した粒子が大量に放出されています。  
地球の磁場に捉えられた一部がオーロラとして観測されます。

超新星爆発などで発生した非常にエネルギーの高い ( $\sim 10^{20}$  eV) **銀河宇宙線**も飛んできています。  
上空で大気とぶつかって核反応により**放射性核種の生成**が起きています。  
(一年間に C-14:  $10^{15}$  Bq, H-3 (トリチウム):  $10^{18}$  Bq 程度が生成されています)



おうし座のかに星雲。  
超新星爆発の残骸。



国際宇宙ステーション ISS の完成予想図

大気で遮蔽されていない上空では放射線量が増加します。  
**欧米への飛行機での往復で100~200  $\mu$  Sv程度被ばく**します。  
宇宙ステーション (ISS: 高度400km) では、1日当たり0.5~1mSv程度にもなります。



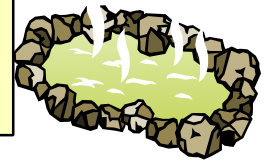
# 大地からの放射線

ウランは地殻中でありふれた元素



花崗岩

地中の岩石の中には少しずつウランが含まれていて、平均で1トンあたり2.4g、花崗岩には11gも含まれていて、140kBqに相当します。ウランの娘核種もまた放射線を出して別の放射性核種となる、壊変系列を形成しています。



ラドン温泉

地球の内部が暖かく、温泉が出るのも、地球の内部の放射性物質の崩壊によるエネルギーだと言われています。



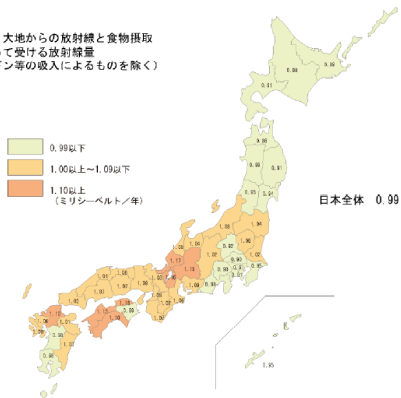
トンネルの中は周囲を岩石に囲まれてるため地表よりも放射線量が高くなります。

(東名高速の日本坂トンネルで0.13  $\mu$  Sv/h など地表の倍程度)

壊変系列の中に気体の放射性核種、ラドンが含まれていて、石の中から出てきて空気中を飛んでいます。これが肺の中で $\alpha$ 線を放出して内部被曝を起こします。

## 全国自然放射線量

宇宙、大地からの放射線と食物摂取によって受ける放射線量(ラドン等の吸入によるものを除く)



世界には日本よりはるかに自然放射線量が高い(年間10mSv以上)地域があります。国内でも岩盤が多く露出している地域では比較的放射線量が高く、火山灰で覆われている地域などは低く、県単位の比較でも年間で300  $\mu$  Sv程度異なります。

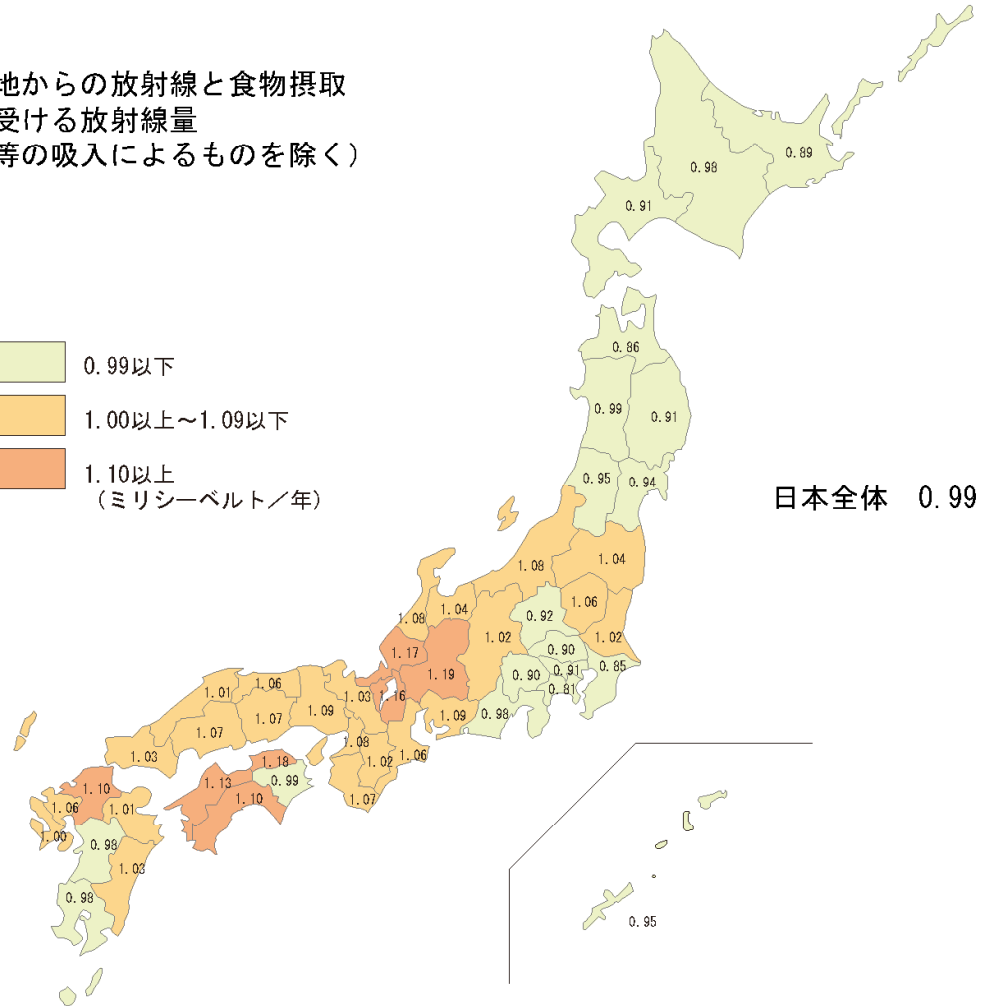


ピサの斜塔

イタリア・ピサの大聖堂

# 全国の自然放射線量

宇宙、大地からの放射線と食物摂取  
によって受ける放射線量  
(ラドン等の吸入によるものを除く)



# 食品からの放射線

福島事故以前から  
含まれる放射能



カリ肥料

天然のカリウム1gには30BqのK-40が入っています。カリウムは作物に、そして人間にとっても必須の元素の一つです。昆布や椎茸、キュウリなどに沢山含まれており、人間の体の中にも体重60kgで4000BqのK-40が含まれていて一年間で170  $\mu$  Sv 被曝しています。

60kgの日本人の体の中にはおよそ 20BqのPo (ポロニウム) -210と言う放射性核種が含まれています。K-40が $\beta$ 線/ $\gamma$ 線を放出するのに対して、このPo-210は $\alpha$ 線を放出するため、内部被曝量は年間で800  $\mu$  Svにもなります。



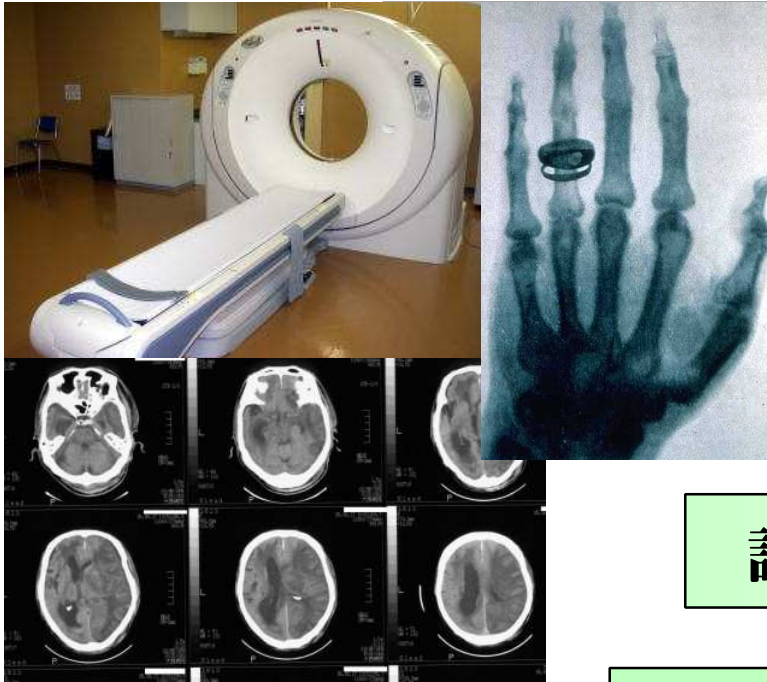
タバコ1本には 0.024Bq のPo-210が含まれており、一日一箱の喫煙で年に100  $\mu$  Sv 被曝します。

# 医療での放射線

先進医療により  
被曝線量は増える

胸のX線検診で  $50 \mu\text{Sv}$   
胃のX線検診で  $600 \mu\text{S}$ 、  
CT スキャンでは **数mSv**

被曝によるリスク  $\leftrightarrow$  ケガ 病気のリスク  
どちらが大きいかをよく考える必要があります。  
★100mSv でガンによる死亡率 0.5% 上乗せ



診察だけでなく、「治療」にも放射線が使われています

多方向からの照射や画像誘導でのピンポイントの照射  
甲状腺ガン: 3.7~7.4GBqの大量のヨウ素-131を投与

体の奥の手術が難しいガン:  
加速器からの**イオンビーム**で  
**特定の深さ**を集中攻撃

広範囲に分散したガン:  
**ホウ素**を取込ませた癌細胞に  
**中性子**をあてる

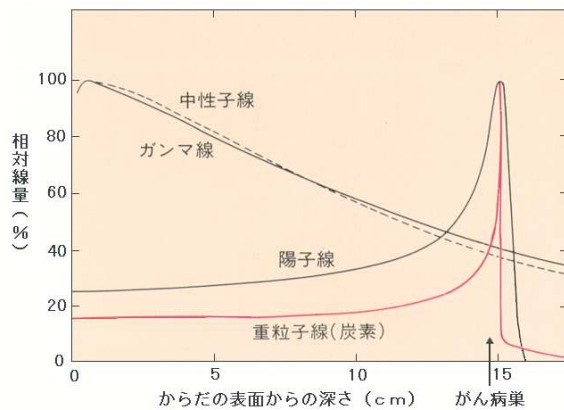
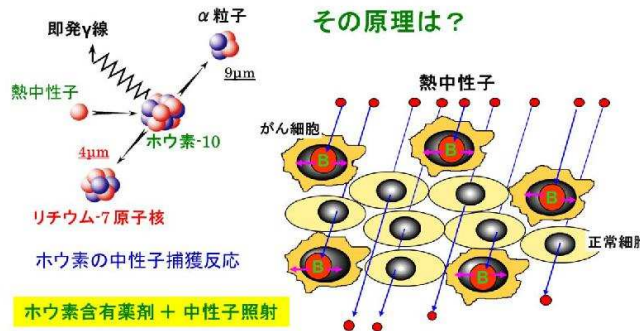


図2 重粒子線照射治療の利点(2)

この図では深さ約15cmのところにおいて最大線量となり、がん病巣に大きな線量を与えることができる。深さは調節できる。

[出典]放射線医学総合研究所: 重粒子線がん治療装置HIMAC、1995年8月

ホウ素中性子捕捉療法  
Boron Neutron Capture Therapy (BNCT)

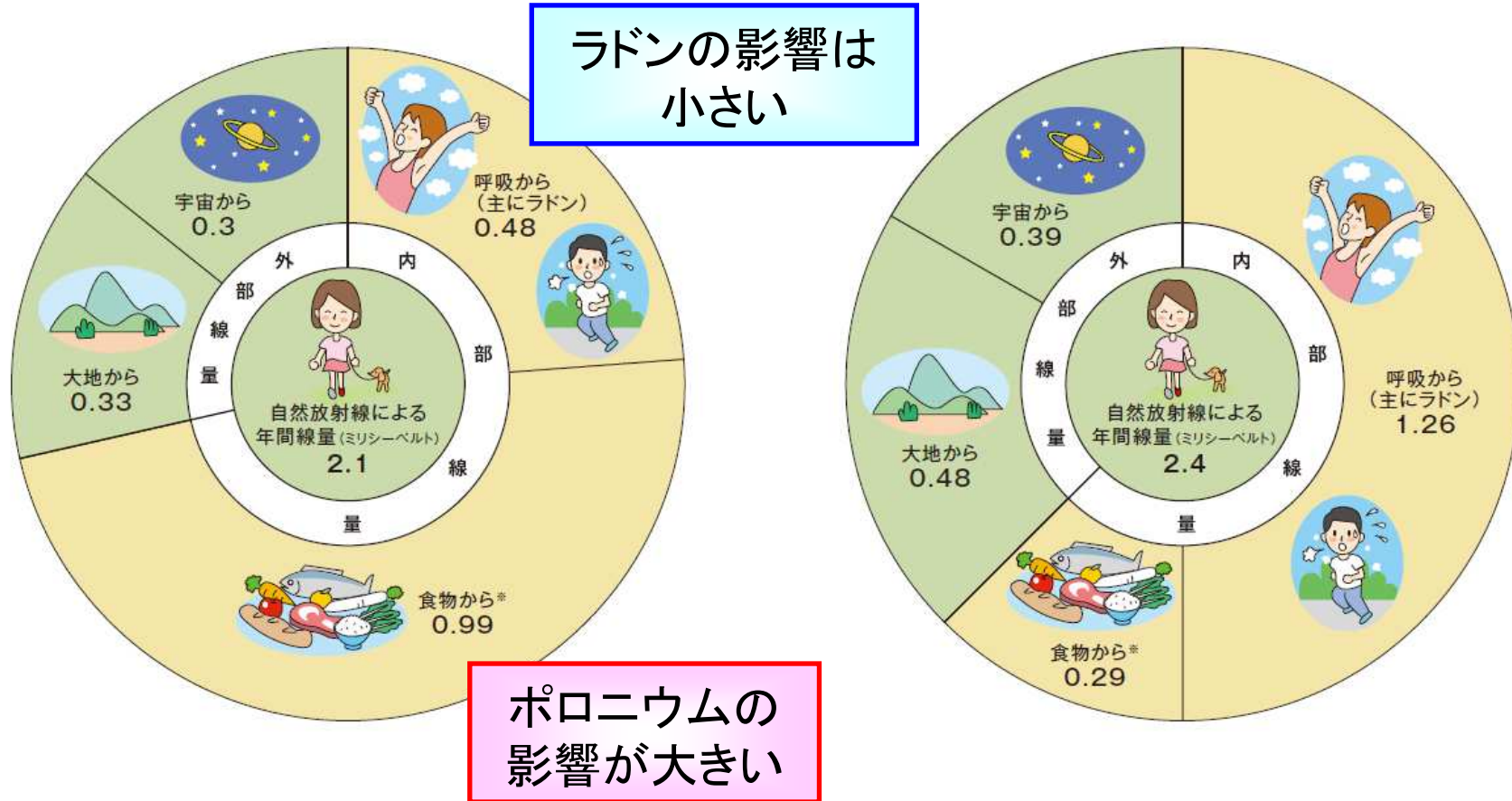


ホウ素含有薬剤 + 中性子照射

# 自然放射線から受ける線量

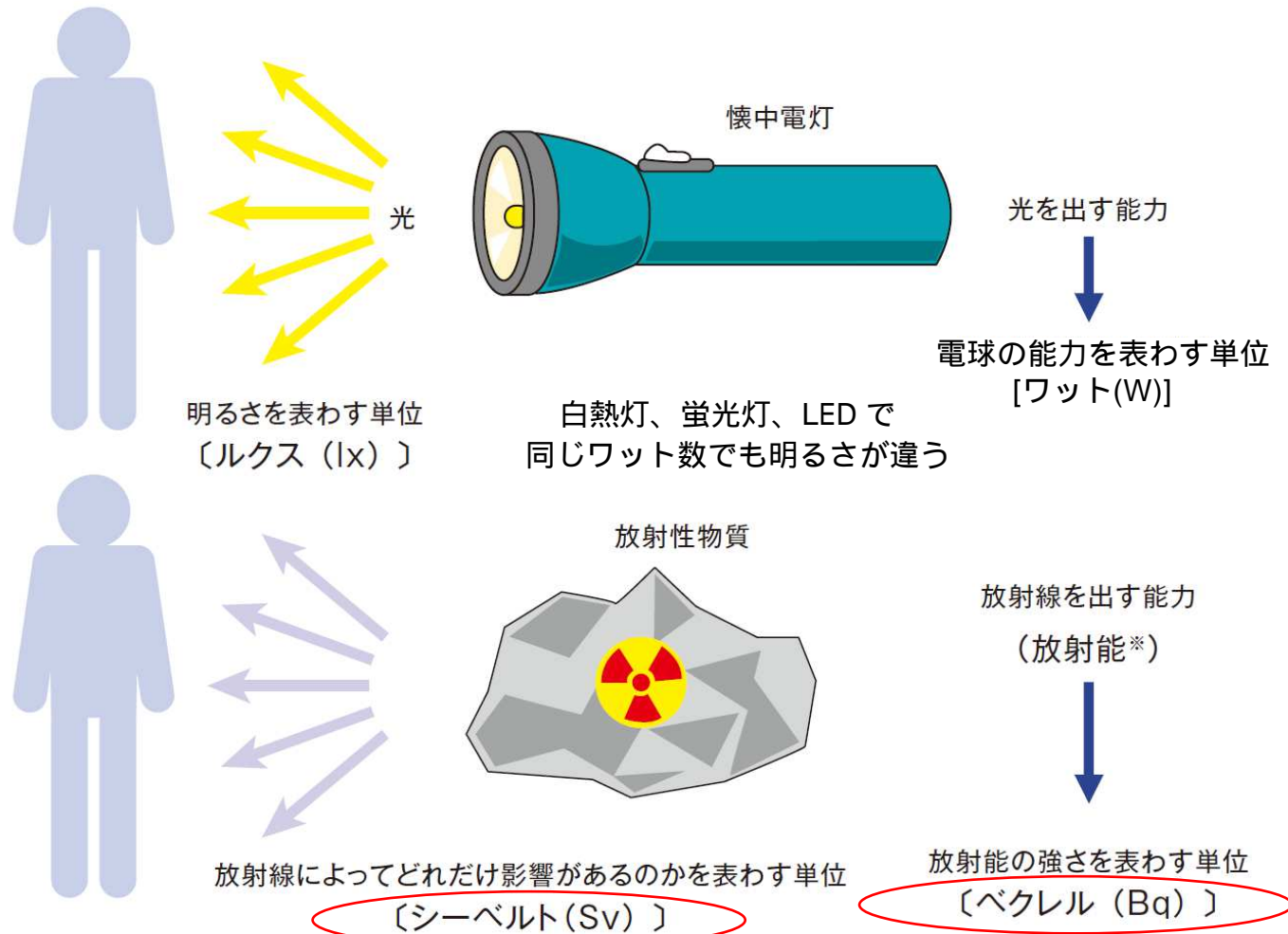
一人あたりの年間線量(日本平均)

一人あたりの年間線量(世界平均)



※欧米諸国に比べ、日本人は魚介類の摂取量が多く、ポロニウム210による実効線量が多い

# 放射能と放射線



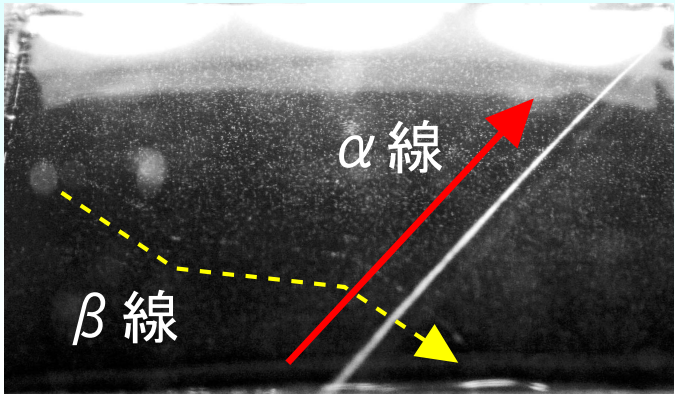
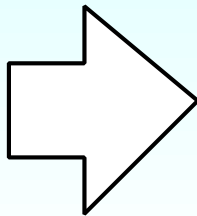
※放射能を持つ物質(放射性物質)のことを指して用いられる場合もある

核種によって同じベクレル数でも  
人体に対する影響が違う

# 放射線の種類によって影響が違います

同じエネルギーの放射線を吸収した場合でも、**アルファ線**と、**ベータ線**、**ガンマ線**とでは、**20倍**も影響の大きさが違います。

相互作用の違いを反映



\*体重60kgの日本人

体内の放射能

1年間に被ばくする実効線量

カリウム  
K-40: 4,000Bq

0.17 ミリシーベルト

β・γ線のみ

ポロニウム  
Po-210: 20Bq

0.80 ミリシーベルト

α線を放出

100ベクレル を肺に吸入したときの被ばく線量	
プルトニウム-239	3.2 ミリシーベルト
セシウム-137	1万分の 6.7 ミリシーベルト
トリチウム(H-3)	百万分の 4.1 ミリシーベルト

**同じベクレルの放射能でも  
体に与える影響は全く異なります!**

プルトニウム-239: 5.1MeV の α線、半減期 2.4万年、肺や肝臓などに沈着  
セシウム-137: 0.51MeV の β線と 662keVの γ線、半減期 30年、カリウムなどとともに体外に排出  
トリチウム(H-3): 18.6keV の β線、半減期 12.3年、水と共に体外に排出

# 内部被ばくはずっと体内で放射線を出すから危ないんじゃないの？

クイズ: 1kg あたりセシウム-137 を 100 Bq 含む米を、一食あたり1合(精米で150g、炊きあがりでは330g)、一日三食、365日食べつづけたとして、そのあと50年間で被ばくする線量はどの程度になるでしょう？

答え: 0.21ミリシーベルト

現在一般食品中の放射能濃度の基準値は、放射性セシウムで 100ベクレル/kg となっており、この設定は基準値の上限値の場合となっています。現在も福島県産の米については全量検査が続けられていますがほぼ全てのサンプルで検出できないぐらい放射能は少なくなっています。ですので、今回のクイズは有り得ないぐらい高い濃度の食品だけをずっと摂取し続けた場合、と言う極端な例だとお考え下さい。



欧米に飛行機で旅行すると、宇宙線の増加により0.2ミリシーベルト程度被ばくします。

## 「内部被ばく」による影響

- ・どんな放射線の種類か( $\alpha$ 、 $\beta$ 、 $\gamma$ )
- ・どのぐらいのエネルギーか
- ・物理的な半減期
- ・排出されやすさ(生物学的半減期)
- ・どんな臓器に蓄積されやすいか
- ・蓄積される臓器の感受性

全部考慮して評価しています

その後 50年間にわたる影響を、取込んだ時点でいっぺんに被ばくしたとして被ばく線量(シーベルト)の計算をします。

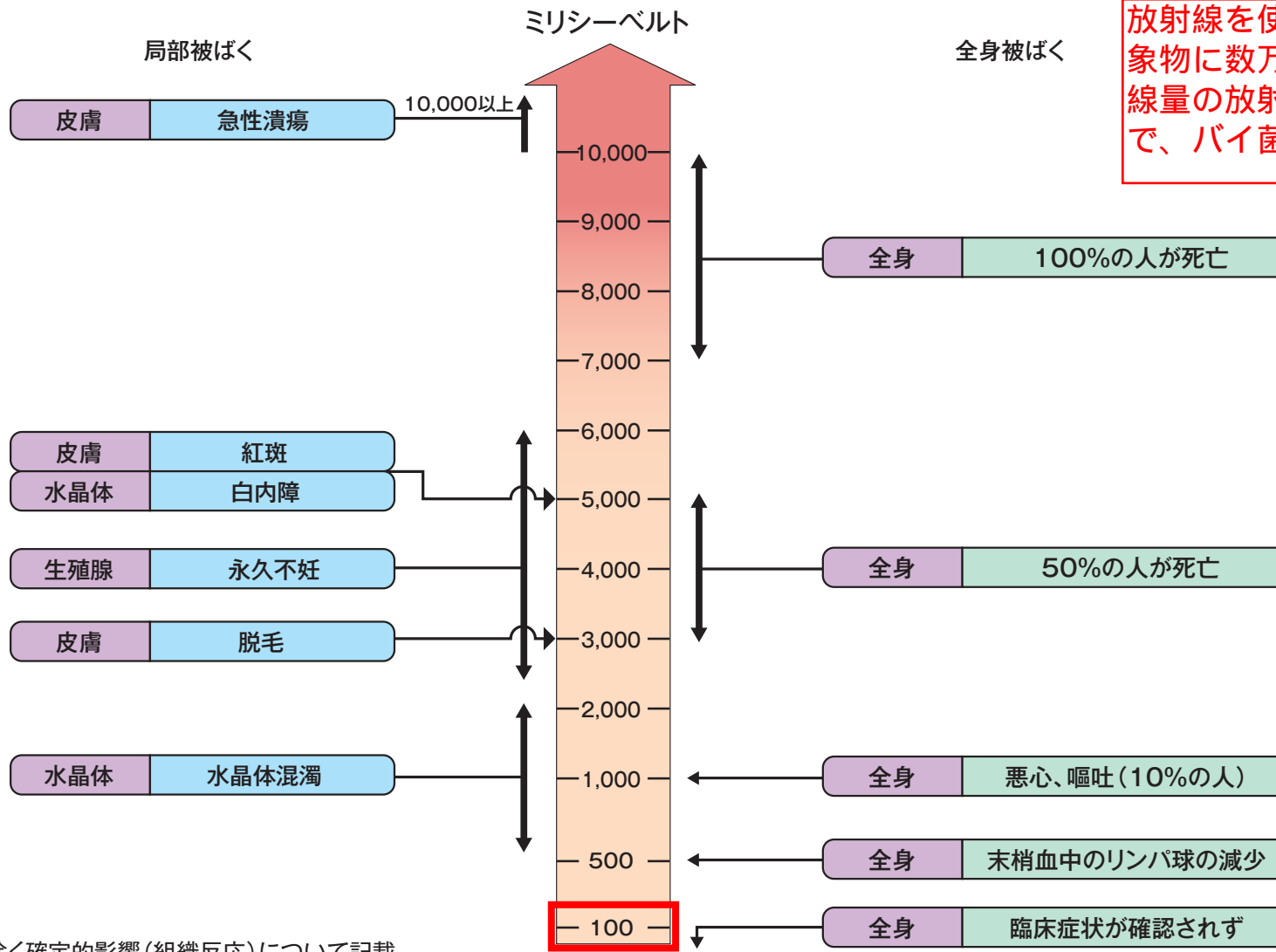
このようにして求められた**内部被ばくの線量**と、**外部被ばくの線量**とは、**同じリスク**になります。

実際には、**同じ量**を**少しずつ長い期間にゆっくり**被ばくするのと、**いっぺん**に被ばくするのとでは、DNA修復のメカニズムがあるため、**ゆっくりの方が影響は小さくなります**。



# 放射線を一度に受けたときの症状

凡例 部位 症状



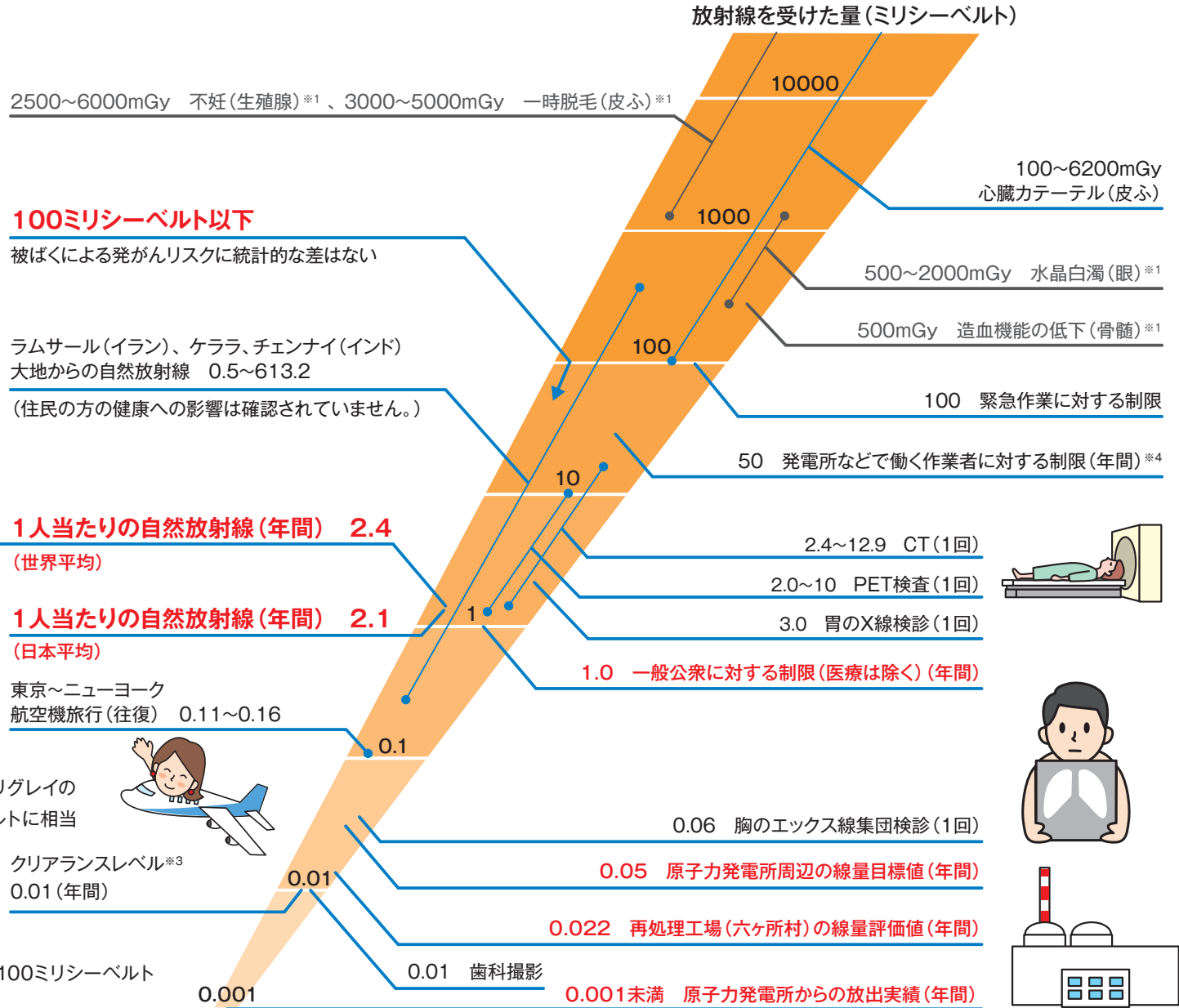
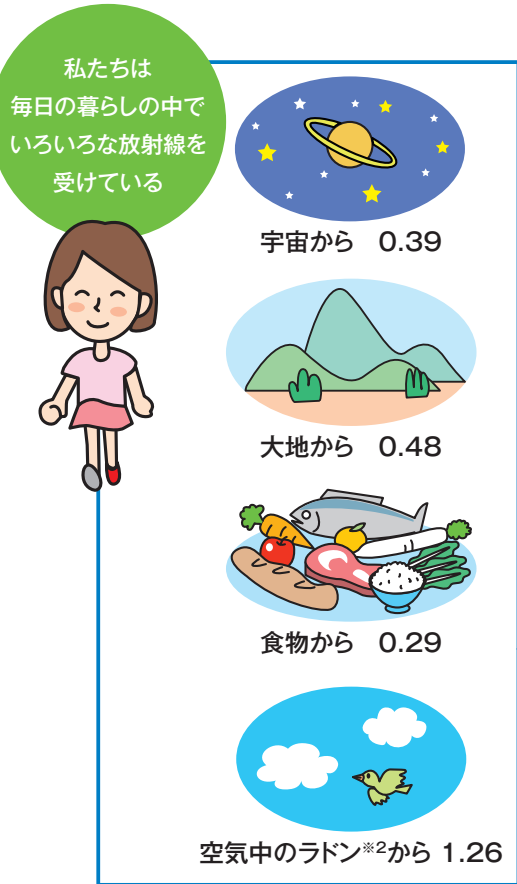
放射線を使った滅菌では、対象物に数万グレイもの物凄い線量の放射線を照射することで、バイ菌を殺しています。

(注1) がんや遺伝性影響を除く確定的影響(組織反応)について記載

(注2) 一般の人の線量限度1.0 mSv/年、原子力発電所周辺の線量目標0.05 mSv/年

染色体の転座などのミクロな変化は観察されています

# 日常生活と放射線



※1 放射線障害については、各部位が均等に吸収線量1ミリグレイのガンマ線を全身に受けた場合、実効線量1ミリシーベルトに相当するものとして表記

※2 空気中に存在する天然の放射性物質

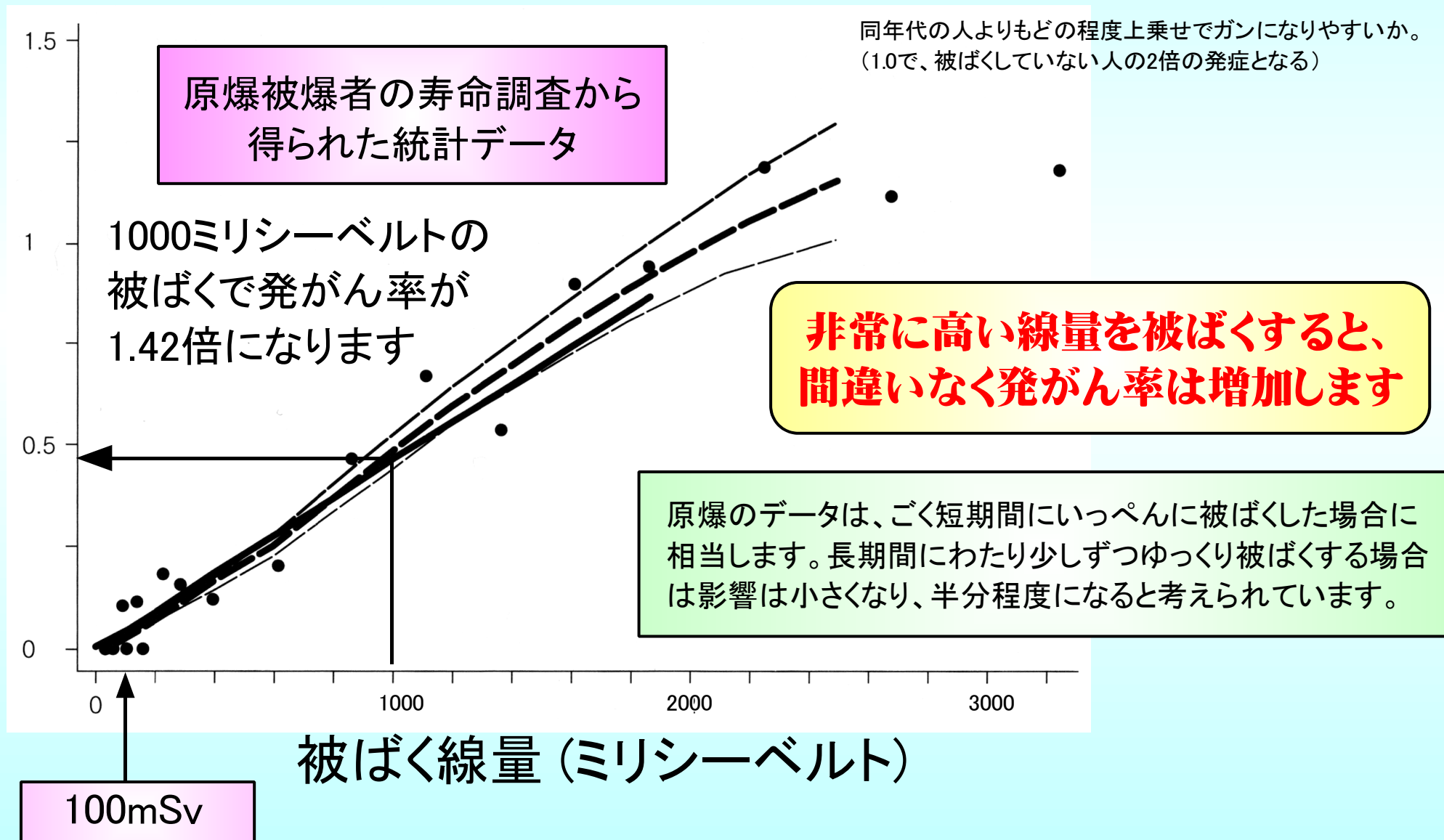
※3 自然界の放射線レベルと比較して十分小さく、安全上放射性物質として扱う必要のない放射線の量

※4 発電所などで働く作業員に対する線量は5年間につき100ミリシーベルトかつ1年間につき50ミリシーベルトを超えない

# 発がんへの影響はどのぐらいなの？

30歳の時に被ばくした人が、70歳になったときの過剰相対リスク

固形ガン発症の過剰相対リスク



# 低線量放射線の影響はどのぐらいなの？

固形ガン発症の過剰相対リスク

生涯にわたってどこかでガンによって死亡するリスクは、被ばく時の年齢、性別などを全世界で平均化した場合、慢性被ばく100mSvで0.5ポイントだけ「**上乗せ**」されます。

高い線量での関係から、直線的だと考えて管理・規制しています

0.05

100mSv

被ばく線量（短時間での被ばくの場合）

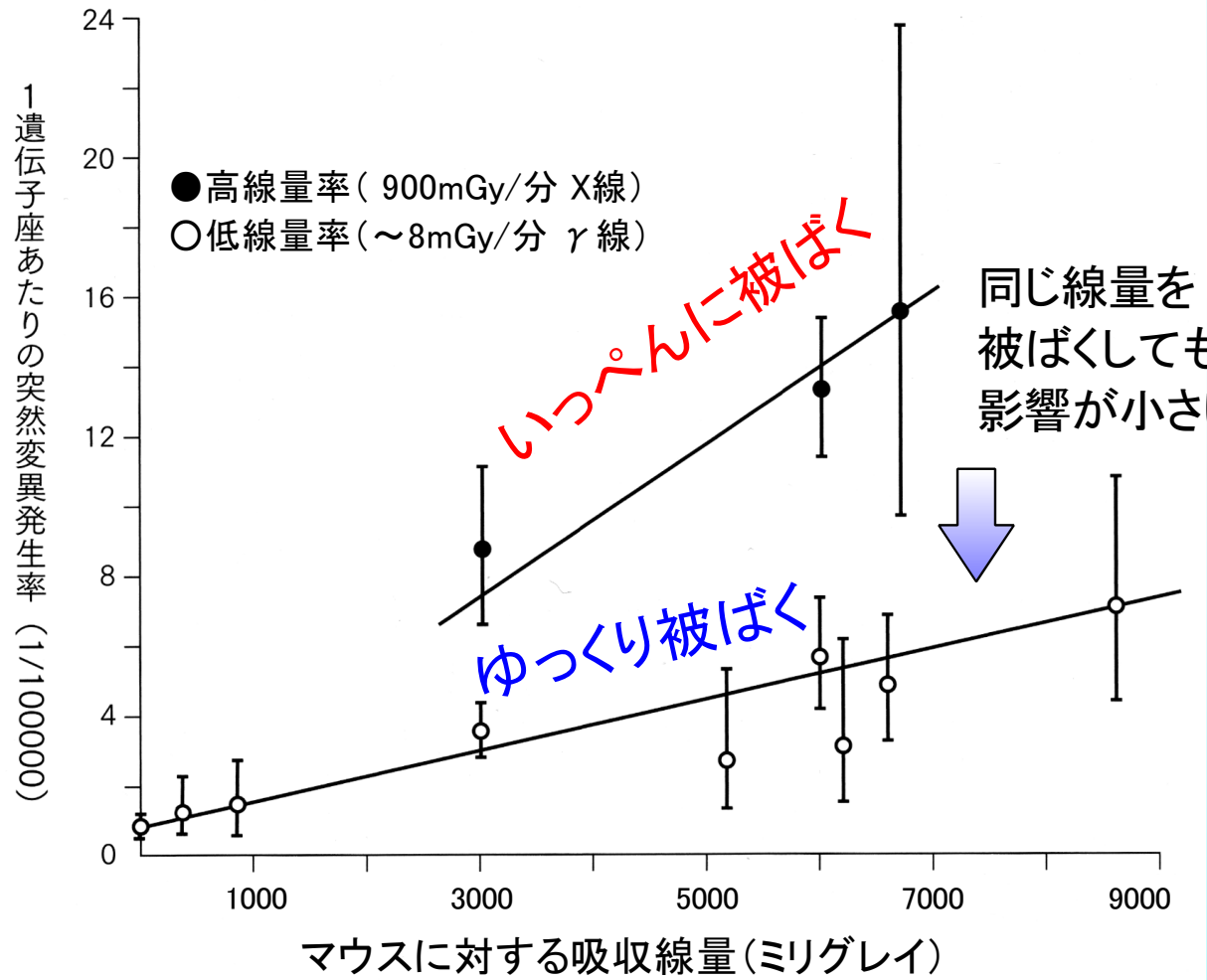
高い線量での発がん率から計算すると、100mSvを短時間に被ばくすることにより、被ばくしていない人より、ガンの発症リスクが1.05倍に増加となります\*。（被ばくしていない人の発症率を20%とすると、21%になります）

\* 30歳で被ばくした人が70歳になったときの値で、被ばくしたときの年齢、その時の年齢で上乗せのリスクは変わってきます。

これ以下の線量でも影響はあるかも知れませんが、影響が小さすぎて、他の生活習慣などに隠れてしまって有るのか無いのか良く分からない、というのが100ミリシーベルトという線量です。

# 長期間の被ばくの方が危険じゃないの？

合計で同じ線量を被ばくするなら、  
時間あたりの線量が小さい方が影響は少ない！



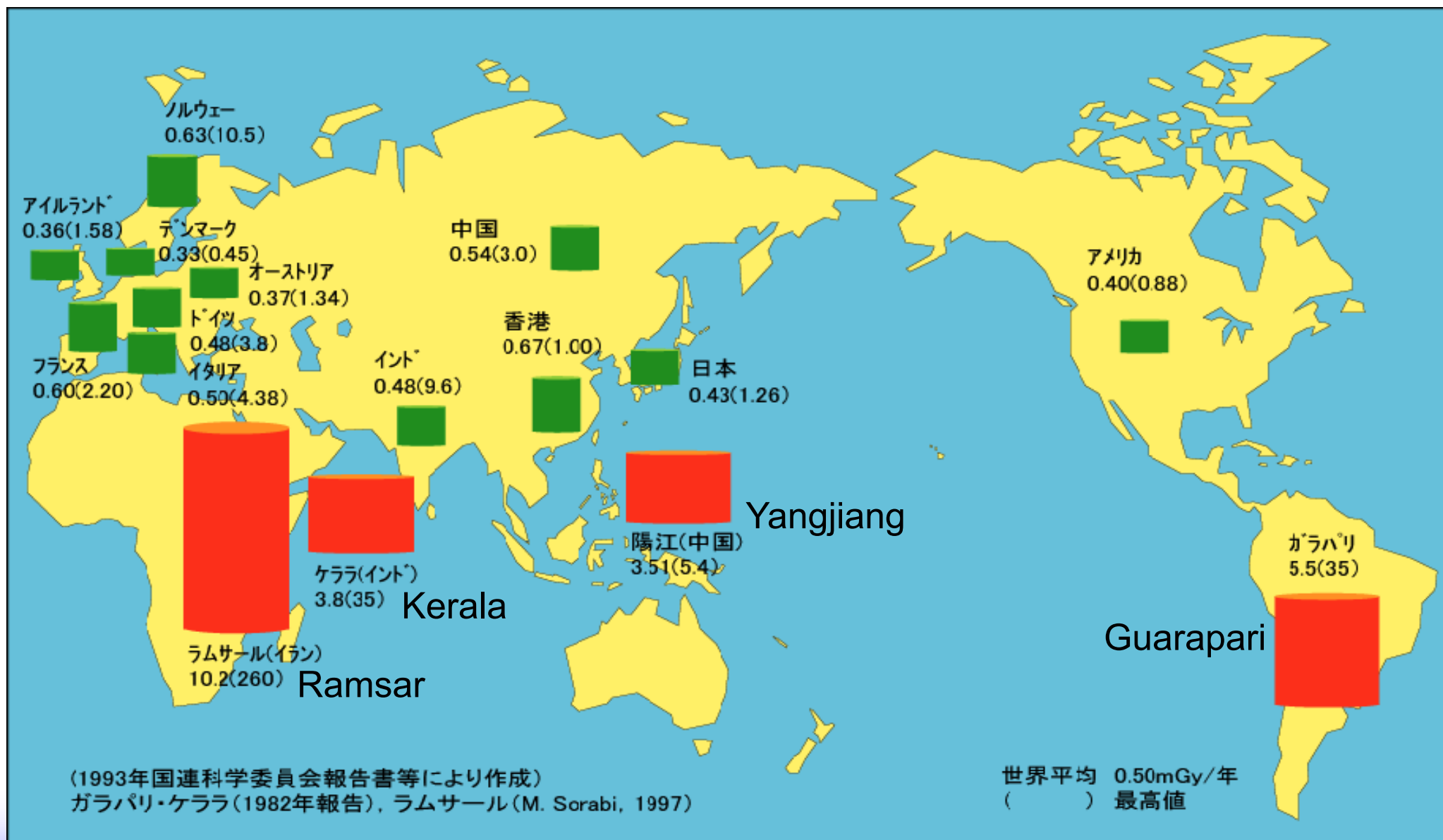
細胞にはDNAを修復する力があります

1950年代に行われた、700万匹にも及ぶマウスを用いた、「メガマウスプロジェクト」からのデータです。これほど大規模な実験は現在では国家レベルでも不可能です。

グレイは物質に吸収される放射線のエネルギーです。100ミリグレイのX線やガンマ線を人間が吸収した場合、100ミリシーベルトと同じ数値になります。

放射線必須データ32、創元社、p.20。(メガマウスプロジェクトの論文より引用、原典では横軸単位はレントゲン)

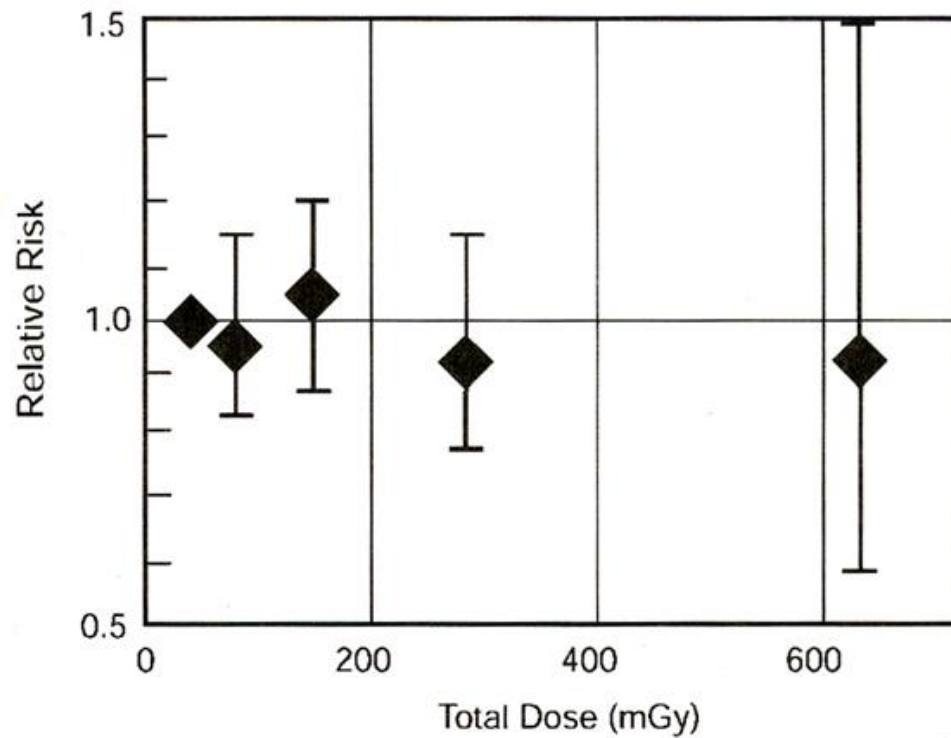
# 世界の自然放射線



# 高自然放射線地域でのがん罹患率

## インドケララ州高自然放射線地域

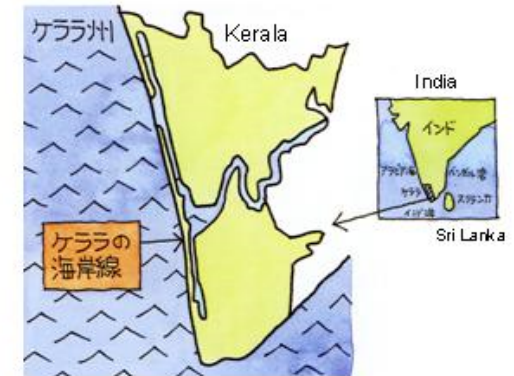
全がん(白血病を除く)の相対リスク



推定累積線量

地域住民の発がんリスクは  
高くない

トリウムを含む黒い砂浜で暮らす漁民

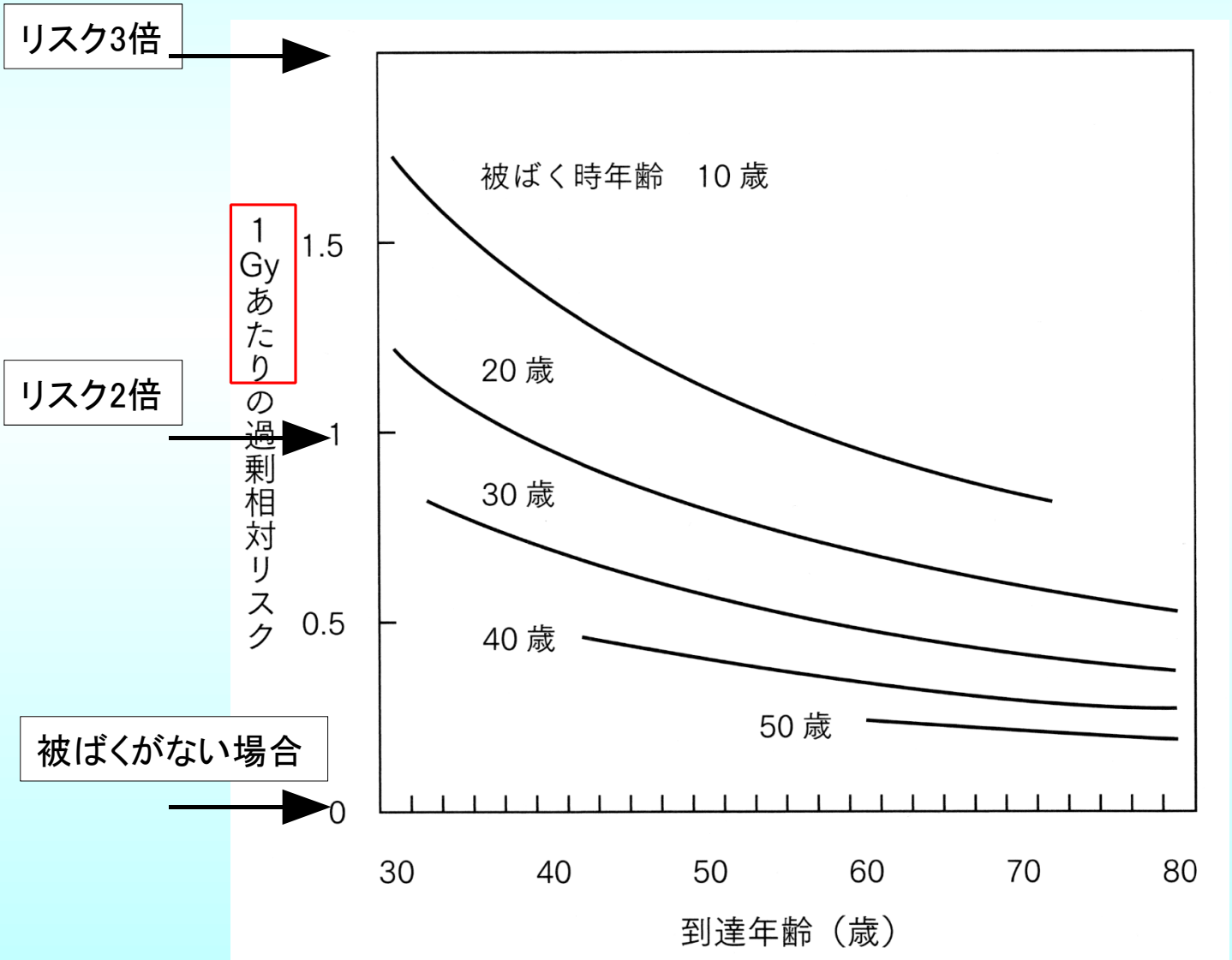


(「世界の大地放射線」放射線照射利用促進協議会)

(Nair, R. R. K. et al., *Health Phys.*, 96, 55-66, 2009)

# 子供は被ばくの影響が大きいんじゃないの？

原爆被爆者の被ばく時年齢による  
全固形ガンによる死亡リスクの比較 \*白血病は除外



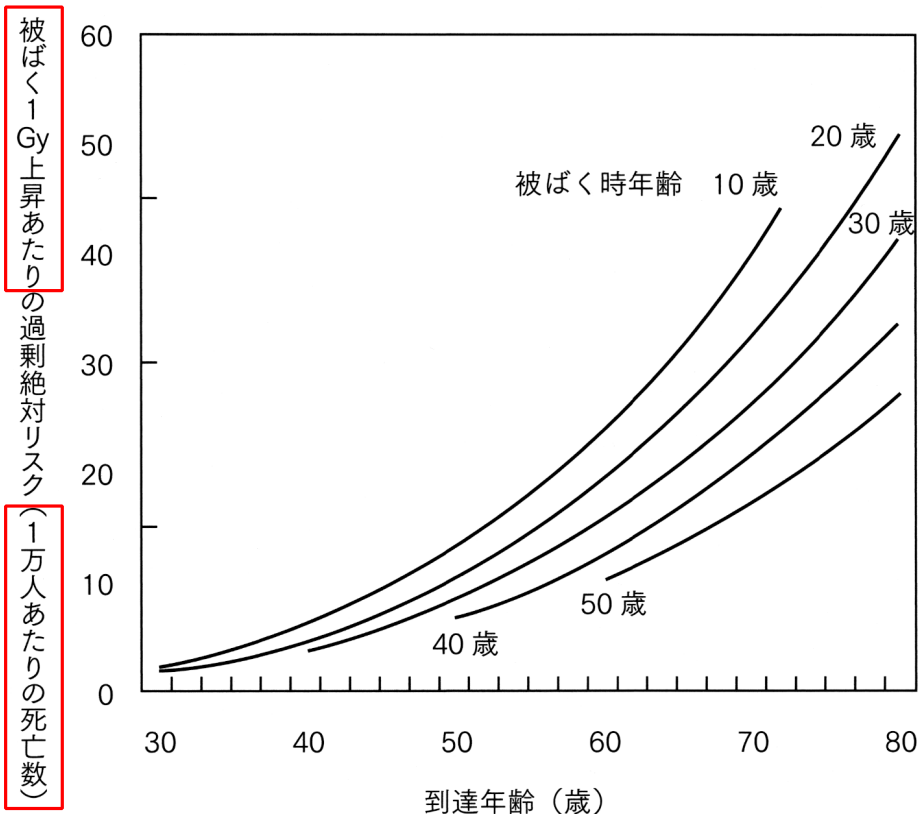
1000mGy 被ばくした場合のガンによる過剰相対死亡リスクを、被ばく時の年齢、およびその後生存していった場合の各年齢で整理したグラフ。

被ばく時に若いほどその後の影響は大きく、また若い時点ほど相対的なリスクは大きい。  
ただし、被ばくがない場合のそもそものリスクは年齢が上がるほど大きくなるため、絶対的なリスクは高齢者ほど上昇している。



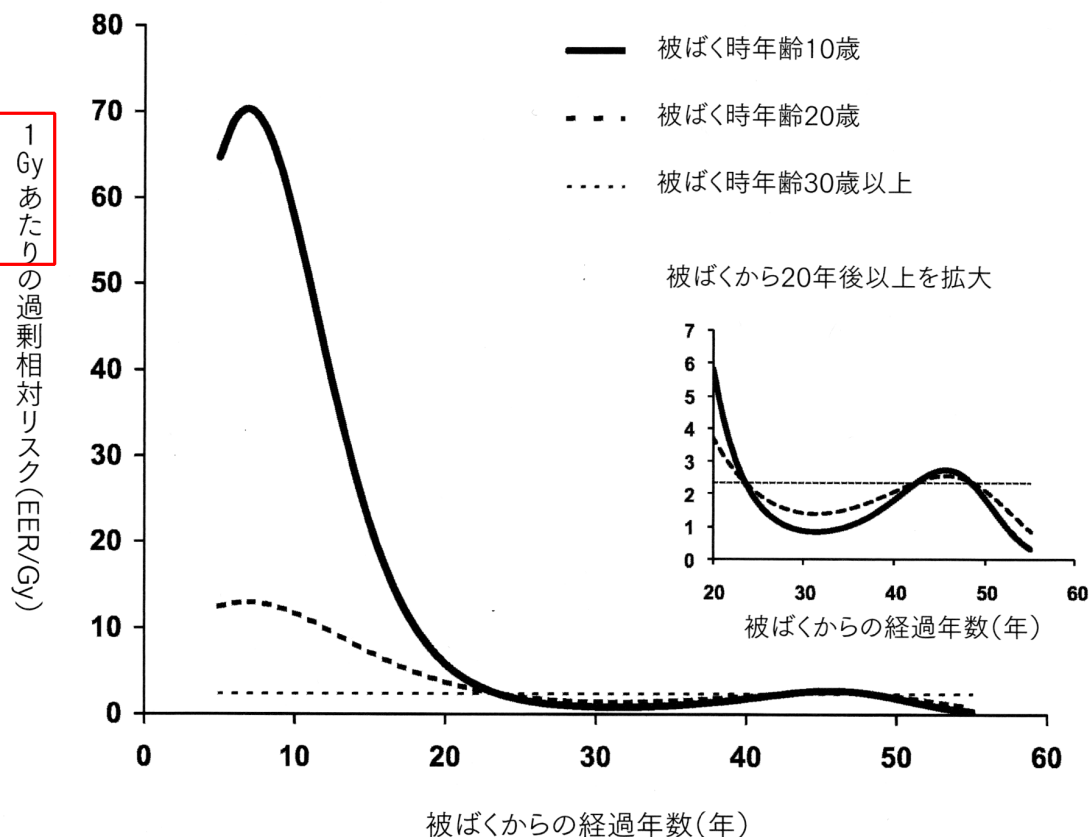
# 子供は被ばくの影響が大きいんじゃないの？

原爆被爆者の被ばく時年齢による  
全固形ガンによる過剰死亡絶対リスクの比較



絶対的な死亡者数は、高齢になってからの方が多し。  
ただし、被ばく年齢が低いほどその後も継続的に高い。

白血病の死亡過剰相対リスク



子供が被ばくした場合の白血病による死亡相対リスクは非常に高い。  
ただし、そもそも白血病による死亡者は固形ガンの1/40以下で、  
20歳程度までの若年時の死亡率は非常に低い(10万人中1人程度)。